

ねやがわディベート（ver.6）

寝屋川市教育委員会
ねやがわディベート研究部

目次

1	ディベートとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	「言い認め合い」のディベートとは	
3	ディベートで身に付く5つの力	
4	ディベートで育つ姿	
5	ディベートの主なルール	
6	ディベートで子ども同士をつなぐために	
	(1) 学級経営との関連を意識する・・・・・・・・・・	2
	(2) ディベートの指導におけるポイントとなる10の声かけ	3
7	よりよいディベートを実現するために	
	(1) ディベートにつながるゲームや活動を取り入れる	5
	(2) 多面的・多角的に考える思考を鍛える	12
	(3) 実態に即して様々なディベートの形を段階的に行う	13
	(4) 説得力を生むための指導を取り入れる	15
	(5) 教科指導との関連を考える	16
	(6) “客観的”なディベートの前後で“主観的”に考える時間を持つ	17
8	ディベートの論題について・・・・・・・・・・	19
9	フローシートについて・・・・・・・・・・	20
10	板書について・・・・・・・・・・	21
11	フィードバックの大切さについて・・・・・・・・	21
12	ICTの活用について・・・・・・・・・・	24
13	ディベートの評価について（参考資料）	24
14	ディベートに関する指導例・・・・・・・・・・	28

巻末資料

- ねやがわディベート 年間カリキュラム（例）
- フローシート（記入用・記入例）
- 話型指導・活用の留意点
- 年間指導計画例（1年生～中学3年生）
- ねやがわディベート論題集
 - ①各校実施ディベート論題事例
 - ②各教科との関連を図った論題（小学校）
 - ③各教科との関連を図った論題（中学校）

寝屋川市の目指す子ども像

考える力を身に付けた たくましく生き抜く子

寝屋川が目指す教育のイメージ図とディベート教育の位置づけ

考える力を身に付けた たくましく生き抜く子



生き抜く力の根っこを育む 「寝屋川教育」

「寝屋川教育」のベースとなる「考える力」の育成

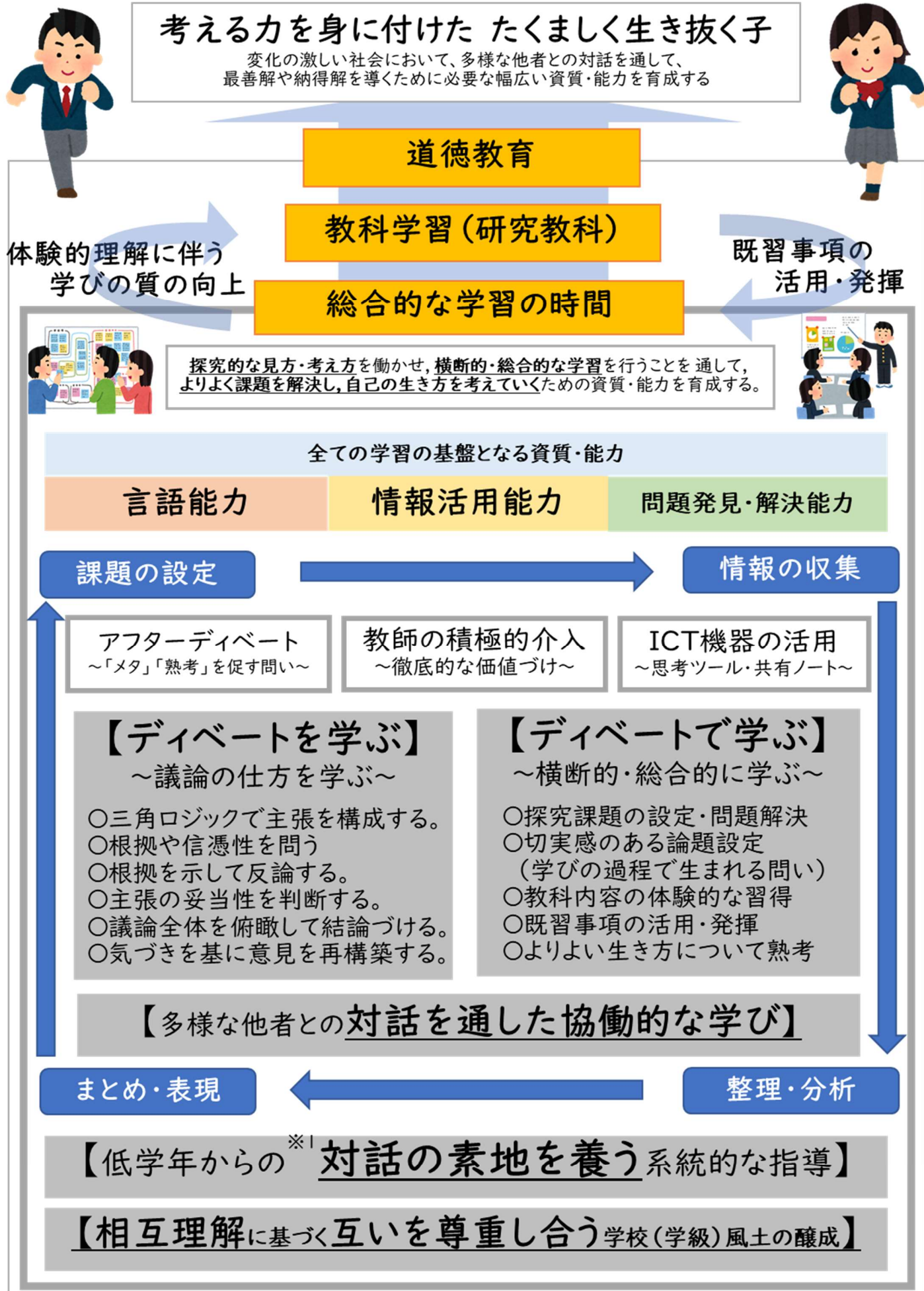
「考える力」の基礎は、本来、家庭でのコミュニケーション等の中で育まれていくものであると考えられますが、環境の違い等によりその力の形成に影響を受けている現状があります。そのため、学校において、ディベート教育や道徳教育等により「考える力」を着実に育むことで、学びの基礎をより確かなものにすることができるよう取組を進めることが大切であると考えています。

環境の違い等による格差が、中学校を卒業する時の子どもたちの進路を狭めることの無いよう、その格差を乗り越え、自らの進路を自らの力で切り開けるような力を育成することが、「寝屋川教育」の目指すものです。

学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」につながるディベート

「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を行うには、私たちの今までの「授業観」を変える必要があります。「正解を教師が持っていて、それを子どもたちに一方的に教え込む」型の授業から、子どもたちを「主体的な学び手として育てる」指導の考え方やあり方について研究・実践していくことが求められています。ディベートは、そうした指導の1つとして有効な手段です。そこで、寝屋川市では学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」を実現し、それによる「考える力」の育成を目的として、ディベートを活用します。

※これらの目標を実現するために、本冊子を活用し各校で取組を進めてください。



1. ディベートとは

「審判」を説得するために、

- ・根拠を伴った意見を述べ合う
- ・お互いの意見を質問し合って明確にし合う
- ・相手の意見に対して反論を述べ合う

という「ルールのある」話し合いのゲーム

2. 「言い認め合い」のディベートとは

双方の相違点や問題点を明らかにし、そこから建設的な解決策を見出すために行う議論を指す。寝屋川市では、「言い認め合い」のディベートを実施し、多様な他者と協働しながら、合意形成を図るための総合的な力を育成する。

3. ディベートで身に付く5つの力

- ① 論理的思考力
- ② 問題解決能力
- ③ 情報選択能力
- ④ 客観的・多角的にみる力
- ⑤ 対話力（話す力＋聴く力）



4. ディベートで育つ姿

- ① 筋道を立てて考えることができる
- ② 相手を尊重して話し合うことができる
- ③ 必要な情報（正確な情報）を集め活用することができる
- ④ その場の空気に流されて動くことのない健全な個が育つ
- ⑤ そのような個が集まることで望ましい学級集団へと学級が成長する

- ・相手の発言を傾聴する → 個人が成長する
- ・自分の発言に責任を持つ → 学級づくりにつながる
- ・チームで行うため、仲間との協力関係が深まる → 学級づくりにつながる

5. ディベートの主なルール（※ルールは必要だが、実態によって柔軟に設定すること）

- ① 大きく分けて「準備型ディベート」と「即興型ディベート」がある
- ② 論題（話し合うテーマ）が決まっている
- ③ 立場が2つ（肯定と否定、AとBなど）に分かれ、全員に役割がある
- ④ 「自分の考え」と「ディベートをするうえでの立場」とは無関係である（＝人と意見を区別する）
※徹底されていないと、判定することをためらったり、選ばなかったチームに謝罪したりするようになってしまう。
- ⑤ 主に、肯定側立論→否定側質疑→否定側立論→肯定側質疑→否定側反駁→肯定側反駁→判定という流れで行われる（「質疑を省略する」、「第二反駁や最終弁論を追加する」等の方法もある）
- ⑥ 立論・質問・反駁できる人と時間は決まっている（実態に応じてその長さを変えてもよい）
- ⑦ 勝敗がある

A. 準備型ディベート

事前準備を行ってから、ディベートマッチに臨むやり方。

事前準備のステップ例

- ① 論題についてのメリット・デメリットを、個人学習、KJ法、話し合い等でまとめ、立論に使用する根拠の案を作成する。（2h）
- ② 資料やデータを収集する。（インターネット、新聞、書籍、インタビュー等）（1h）
- ③ 「自分たちの主張を強めることができるか」「出典は確かか」「いつのデータか」等の視点から資料やデータを吟味する。（2h）
ア. 立論を作成する。
イ. 資料の作成を行う。（その力を伸ばしたい、提示が必要な段階である、といった場合）
- ④ 質疑、反駁を予想し、対策を練る。（1h）
- ⑤ チーム内で模擬ディベートマッチを行い、修正やさらなる資料の収集等を行う。（1h）
- ⑥ ディベートマッチを実施する。（1～3h）

<メリット>

- ・「2. ディベートで身に付く5つの力」のうち、特に「③情報選択能力」の向上が見込まれる。
- ・ 自主学习等との接続を図りやすい。
- ・ 議論が深まりやすい＝論題についてより深く考えることができる。 等

B. 即興型ディベート

直前に論題を提示し、即興的にディベートマッチに臨むやり方。

即興型ディベートの実施手順例 （教科での学習内容から論題を設定した場合）

- ① 各教科等の学習内容から、議論したいこと論題として設定する。
- ② 論題に即した主張と根拠を学習内容等から考え、立論を作成する。
- ③ 役割を決め、それぞれの役割に即した話型の書かれたワークシートを準備する。

<メリット>

- ・「2. ディベートで身に付く5つの力」のうち、（特に即興的に）「⑤話し合う力」の向上が見込まれる。
- ・ 各教科等との接続を図ることで、学習内容がより定着する。
- ・ 各教科等の話し合い活動が活発になる。 等

※「準備型ディベート」と「即興型ディベート」は、「どちらか一方だけがいい」ということではなく、それぞれの良さ、ねらいがある。児童・生徒の実態を見極め、バランスよく設定することが大切である。

【参考動画】 「KIDS の即興ディベート 」

URL: <https://dbf.jp/kids/debate/>



6. ディベートで子ども同士をつなぐために

(1) 学級経営との関連を意識する

本市ディベート講師の菊池省三先生は、ディベートと学級経営（学級づくり）との関連を以下のように述べている。

ディベートを通して、子どもたちの話し合う力は、確実に飛躍的に伸びていきます。そして、ディベート指導の効果によって、話し合う力が伸びるだけでなく、その場の空気に流されて動くことのない健全な個が育ち、そのような個が集まることによって、望ましい集団へと学級が成長していくのです。

今回、特に強調したいのはこの点です。私は、それを「学級ディベート」と名付け、望ましい学級づくりをしていくための土台づくりとして、ディベートを取り入れていくことを提案します。

ディベートで望ましい集団を創っていくことができる理由は、ディベートのもつルールが

- ・ 人と意見を区別する
- ・ 根拠を伴った意見を比較し合う
- ・ 反論し合うことで互いの主張を成長させ合う

といった、社会に生きる人間として必要な考え続ける力を育てることができるからです。

「学級ディベート」 菊池省三（中村堂 2018）P. 10 より

ディベートにおける話し合いは、一つに決められた正解、「絶対解」を求めるのではなく、議論を深めながら「納得解」に迫っていくものです。その過程の中に、子どもたちが成長するきっかけがあり、子どもたち同士で成長させ合う場もあるのです。そこでは、私が教室の中で求める「考え続ける人間を育てる」ことができるのです。

同 P. 16 より

これまでのねやがわディベートの取組から、そうした「学級経営との関連」に関する先生方の声を紹介します。

①「子ども同士の交流の機会としてのディベート」

- ・交流が増えて、クラスの雰囲気がよくなりました。
- ・普段話をしない子同士が話す機会が増えました。
- ・普段発表しない子が、ディベートの時間には発表できるようになりました。



②「認め合える空気を作るディベート」

- ・話すことが得意な子、書くことが得意な子など、それぞれの良い所を認め合える機会になっています。
- ・クラス全員が自分の話をフローシートに必死にメモする姿を目の当たりにして、真剣に聞いてくれていると実感できます。



③「活躍の場としてのディベート」

- ・ディベートやコミュニケーションゲームでの姿を価値づけ、全体共有することで、活躍する子が増えました。
- ・ユニークな文章表現や独特な考え方などが排除されず、逆に新たな視点をもたらすものとしてクラスメイトたちから脚光を浴びています。
- ・教科指導の際には見られない、その子の違った一面が見え、教師も子どもを多面的に見ることができるようになりました。
- ・全員に1人1役あることで、自己肯定感の向上につながっています。



④「集団の団結を促すディベート」

- ・友だちの意見を遮らずに聞けるようになりました。
- ・相手の意見を受け入れられる子が増えました。
- ・仲の良さから、厳しいことが指摘し合えず、流されることが多かった子たちが、「〇〇だからダメ」と伝え合えるようになりました。



(2) ディベートの指導におけるポイントとなる 10 の声かけ

①「Win-Win-Winにしよう」

- ・みんなが幸せになれる話し合いをしよう

審判を説得しようとするのではなく、相手チームを攻撃しようとしがちである。そうではなくて、第三者である審判を説得するために冷静に議論を行うよう意識させる。自分たちだけでなく、相手チームや審判に対してもプラスになる議論を心がけさせる。

②「意見は、否定し合うのではなく成長させ合うのです」

- ・つぶし合うのではなく豊かになろう

相手の意見を否定することだけに気を取られる子どもが出てきた場合は、主張を成長させ合うことを意識させる。

そのためにもメモ（フローシート）をもとに、かみ合った議論になるようにする。
（相手の立場や意見を尊重しながら、自分の考えを主張する。）

③「人と意見を区別しよう」

・試合後に相手を称えることができる人になろう

感情的になって相手の人格を否定することがないようにする。

ディベートには、ルールがあるため、両方の立場を体験させる。

これによって、人と意見を区別するという話し合いで大事なことを理解させる。

④「思いつき発言ではなく主張（意見＋理由）しよう」

・意見には理由がないといけません

ディベートは、声の大きさや日頃の人間関係で左右されるものではない。

根拠を丁寧に述べるのが大切である。

特に、肯定側は最初に議論を起こすことから、その意味（現状を変えるための問題提起であること）をしっかりと伝えなければならない。

⑤「立証責任、反証責任を果たそう」

・根拠比べのゲームです

それぞれが、メリットやデメリットが起こるという証明をしなければならない。

「なぜ、そう言えるのか」という根拠を伴った主張をさせる。

肯定側には立証責任が、否定側には反証責任があることも伝える。

⑥「相手の意見を読む楽しさを学ぼう」

・先を読む力が考える力です

相手チームに勝つことだけが目的にならないようにする。

ディベートの面白さは、相手の意見を「～と言うのではないか」と読むことにある。

ただ勝ち負けばかりを気にするのではないことを理解させる。

⑦「審判としての責任を果たそう」

・判定にもその人の誠実さが出ます

何となく印象だけで判定してしまうことがある。そのようなことがないように、メモ（フローシート）を基に、判定の根拠を、責任をもって述べさせる。

⑧「出席者ではなく参加者になろう」

・力のある人は、全体のことも考えられます

チームで行う学習だが、人任せにする等、自分のことだけしか考えない子どもがいた場合は、事前の準備や試合中も互いに協力してチームの一員としての自覚を促す。

全員参加の話し合いを目指すことにつながる。

⑨「空白の1分間を黄金の1分間にしよう」

・反省した人が伸びます

中途半端な準備や話の聞き方では、的確な質問や反論はできない。

持ち時間で何もできない状態になる。

反省を次に生かすことで、真摯な学び手に育ってくる。

⑩「勝敗は準備で8割決まります」

・チームを組んで協力して仕事ができる人になろう

「その場でどうかなるだろう」、といった安易な気持ちでディベートに臨む子どもがいた場合には、準備を通じてチームで協力し合う大切さを伝える。

覚えるだけの学びではなく、考え続けるという学びの体験にもなる。

7. よりよいディベートを実現するために

(1) ディベートにつながるゲームや活動を取り入れる

- ・「説明→活動→ふり返し」を基本とする。
- ・ゲーム性のあるもので体験しながら身につけさせたり、空気感を作ったりしていく。
- ・なるべく、失敗感の少ないもので体験させていく。
- ・活動をしながら価値を共有しておく。
(例)「質問し合うことは、楽しいこと」 「ディベート（質問・反駁）は思いやり」
「人と意見を区別する」

【主に就学前から低学年】

活動例1「言葉あそび」

毎日時間を確保し、言葉を使って遊ぶ。

○目的・効果

- ・楽しみながら語彙数を増やすことができる。
- ・一方的ではなく、やり取りをする必要がある遊びにすることで、「話し合う」素地を作る。

○言葉あそびの例

- ・落ちた落ちた・お店屋さんあるある・さかさ言葉・早口言葉・しりとり (MIM ガイドブック P94)
- ・なぞなぞ・トントングーム (MIM ガイドブック P96) 等

活動例2「言葉あつめ」

いろいろな方法で言葉を集める活動

○目的・効果

- ・楽しみながら語彙数を増やすことができる。
- ・文字や物の名前等に興味を持ち、図鑑などにも触れ、調べ学習にもつながる意識が高まる。

○言葉あつめの例

- ・「あいうえおボックス」＋「ひらがなカード」でその音で始まる言葉を集める
- ・あいうえお表に集めた名詞を書き込む。
- ・テーマを決めて言葉を集める。その言葉でビンゴゲームをする。
- ・言葉リレー（「あ」～「ん」から始める言葉を一人ずつ順番に発表する）をする。
- ・言葉集め競争をする。
- ・「〇っ〇」のように、条件を決めて言葉を集める。

活動例3「どっち、どっちタイム」

毎日時間を確保し、2つの選択肢のうち、どちらを選ぶのか、その理由を発表する活動

○目的・効果

- ・「対話」を重ねることで、考える習慣を身に付け、「考える力」「説明する力」「他人の意見を聞く力」の育成を図る。

○対話の例

- ・「たこやき」と「おこのみやき」、好きなのはどっち？
- ・「犬」と「ウサギ」、一緒に遊びたいのはどっち？ 等

【幼小連携】

活動例4「カルタづくりとカルタゲーム」

園児が絵と二語文を、小学生がそれらを絵札・読み札にして、かるた遊びをするゲーム

○目的・効果

- ・自分たちで集めたり作ったりした言葉で遊ぶことで、言葉の定着や語彙力の向上を図る。
- ・集中して聞く態度を養うことができる。
- ・二語文で構成されているため、発達段階に応じた文章に何度も触れる機会になる。

○進め方とルール

- ①園児が上記の「言葉あつめ」で集めた言葉を使って、二語文を作る。
- ②園児が二語文に合った絵を描く。
- ③小学校へ送る。
- ④小学生が①の二語文に、修飾語や形容詞等を付け加えて詳しくし、読み札を完成させる。
- ⑤小学生が、④の文に合うように②の絵に付け加えて、絵札を完成させる。
- ⑥幼稚園に送る。
- ⑦カラスキャンをして、プリントアウトしたものでそれぞれカルタ遊びをする。
- ⑧お礼の手紙や感想の交流をする。



【全校種・全学年】

※「MIM-PM」等にも取り組みながら、特殊音節等、正しい語の読みから流暢性を高める。

学習ゲーム・活動例1「いいね!ゲーム」

テーマに対して、リズムに乗って順に答え、それに周りが「いいね!」と返すゲーム

○目的・効果

- ・「何を言っても大丈夫」という、意見を言いやすい雰囲気を作る。
- ・何度も順番が回ってくるため、自分の中の言葉が増える。
- ・テーマによっては、相互理解を深める機会になる。

○進め方とルール

- ①3～4人程度のグループをつくる。
- ②最初に答える人を決め、(反)時計回りに答えていく。
- ③リズムに乗れなかったり、答えが出てこなかったりしたらアウト。



学習ゲーム・活動例2「ぴったリスピーチ」

30秒、1分、3分といった限定された時間の中で、自分の伝えたいことを伝える活動

○目的・効果

- ・自分の話量や時間感覚に関心を持ち、見つめ直す機会となる。
- ・話の構成を考えるようになる。

○進め方とルール

- ①時間を指定する。(教師が指定する/話す児童生徒自身が指定する)
- ②決められた時間内でスピーチをする。(タイマーを見る/見ない)
- ③自他のスピーチを聞き、活動をふり返る。



【主に低学年以上】

学習ゲーム・活動例3「むしくいことば ～ちいさい「や」「ゆ」「よ」～」

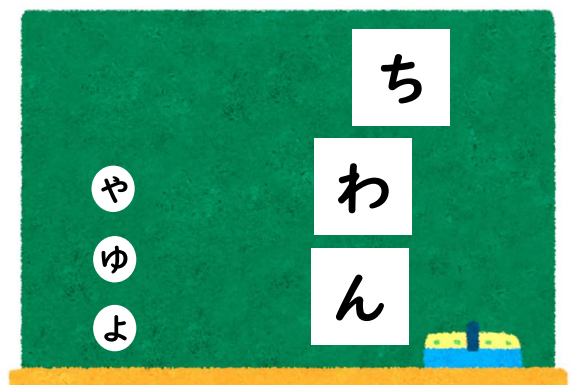
拗音を入れて、ことばを作る活動

○目的・効果

- ・拗音の小さい文字(「や」「ゆ」「よ」)のどれをどこに入ればよいかを言うことができる。

○進め方とルール

- ①黒板に拗音を抜かした状態で文字カードを貼る。
(例:「ち わ ん」)
- ②拗音の小さい文字カードも掲示し、どこにカードを入れるとことばができるかを伝える。
- ③子どもたちに、何の言葉ができたかを聞き、実際に読んだ後に絵カードで確認する。
- ④様々な言葉で繰り返す。
- ⑤聞いていて「なるほど」と思ったスピーチを選ぶ。



学習ゲーム・活動例5「どっちが好きスピーチ」

2つのものを比べ、どちらが好きか理由を伴わせてスピーチをするゲーム

○目的・効果

- ・聴き手に分かりやすく説得的に話す力をつけることができる。

○進め方とルール

- ①どちらが好きか比べるテーマを提示する。
- ②テーマについて、スピーチする内容を考える。(2分)
- ③グループでどっちが好きスピーチをする。(1人1分)
- ④聞いていて「なるほど」と思ったスピーチを選ぶ。



学習ゲーム・活動例6「よってたかって質問ゲーム」

グループで1人に対して、残りの人たちで質問をしていくゲーム

○目的・効果

- ・質問をする力、掘り下げる力、チームで協力する力を鍛えることができる。
- ・相互理解を深める機会になる。

○進め方とルール

- ①4～5人のグループをつくり、質問に答える人を1人決める。
- ②残りの人が、順番に質問する。
- ③全員が質問したら、答える人を替えて、②を行う。
- ④全員が質問に答えるまで続ける。



学習ゲーム・活動例7「聞いて作ろう！クイズ大会」

読み聞かせやスピーチを聞き、聞いた内容に関するクイズを作り、出し合うゲーム

○目的・効果

- ・集中して考えながら聞く癖がつく。
- ・クイズを1つに絞ることで、合意形成の機会となる。

○進め方とルール

- ①教師の読み聞かせや友だちのスピーチを聞き、クイズを考える。
- ②ペアやグループでクイズを出し合う。
- ③グループ内で一番難しいと思われるクイズを決め、クラス全体に出題する。

【主に中・高学年以上】

学習ゲーム・活動例8「メリット（デメリット）NO.1」

より説得力のあるメリット・デメリットを理由とともに伝えるゲーム

○目的・効果

- ・物事を多面的に捉え直し、より説得力のある理由や伝え方を考える機会になる。
- ・情報を比較・精選する機会になる。
- ・ディベートマッチにおける立論作成の素地となる。

○進め方とルール

- ①テーマを決めてできるだけ多くのメリット（デメリット）を書き出し、全体で共有する。
- ②その中から一番説得力のあるものを選ぶ。
- ③できるだけ異種の組み合わせのグループをつくり、1分間のスピーチを行う。
- ④聞いていて「なるほど」と思ったスピーチを選ぶ。



学習ゲーム・活動例9「なぜ・なぜならゲーム」

お互いに質問し合いながら2人で会話を続けていくゲーム

○目的・効果

- ・「根拠」を考える習慣ができたり、自己理解を深めたりする機会になる。
- ・瞬時に反論しないといけないため、論理的思考力を鍛えることができる。
- ・相手の言葉を引用させると、聞く力や質問力を鍛えることができる。

○進め方とルール

- ①ペアをつくり、質問する側と答える側を決める。
- ②「〇〇は好きですか？」という質問でスタートする。
- ③制限時間が来るまで、「なぜ?」「なぜなら」と質疑応答を繰り返す。
- ④質問ができなくなったり、答えられなくなったりしたらアウト。

学習ゲーム・活動例 10「反論でファイト」「でもでもボクシング」

お互いに反論しながら2人で会話を続けていくゲーム

○目的・効果

- ・相手の話をしっかりと聞かないといけないため、聞く力を鍛えることができる。
- ・瞬時に反論しないといけないため、論理的思考力を鍛えることができる。

○進め方とルール

- ①ペアをつくり、最初に話す人を決める。
- ②先攻が最初に言う「出だしのコメント」を与える。
(例)「夏は暑くて嫌ですね。」「大きな家に住みたいですね。」「冬のマラソンは辛いですね。」等
- ③それに対して、「そうですね。でも～」と反論する。
※必ず「そうですね」と相手の考えを受容することがポイント。
- ④そのコメントに対して、もう一人が「そうですね。でも・・・」と反論する。
- ⑤制限時間まで続け、次を言えなくなったらアウト。時間が残っていたら再度チャレンジする。



学習ゲーム・活動例 11「引用質問ゲーム」

しりとりと同じ要領で、相手の言葉を引用して話をつなげていくゲーム

○目的・効果

- ・話を正確に聞き取ろうと集中して聞くようになる。
- ・質問力、即興力が鍛えられる。
- ・会話を続けるコツが分かるようになる。

○進め方とルール

- ①2人組をつくる(審判を入れる場合は、3人組)。
 - ②目標時間を決める(1分間、3分間など)
 - ③じゃんけんをして、どちらが先に始めるかを決める。(出だしの文章を決めてもよい)
 - ④慣れてきたら、「NGワード」や「NG動作」等を入れてもよい。
 - ⑤活動をふり返る。
- 例：「昨日買い物に行ったよ。」→「買い物で何を買ったの？」
「お肉を買ったよ。」→「お肉が好きなの？」
「うん。お肉はお父さんも好きだよ。」→「お父さんは他に何が好きなの？」

学習ゲーム・活動例 12「なりきりインタビュー もの編」

身の回りにある「もの」になりきってインタビューを受けるゲーム

○目的・効果

- ・ものになりきってその役割や気持ちを想像する力を育てる。
- ・相手(もの)に関心を持って質問する力を育てる。

○進め方とルール

- ①インタビューする人とされる人を決める。
- ②インタビューされる人が名刺カードの中から1枚ひき、「私は〇〇です」という。
- ③それを聞いてインタビューする人が、「〇〇さん、どんな時に嬉しくなりますか？」などインタビューをする。
- ④インタビューされる人は、そのものの気持ちを想像して答える。



学習ゲーム・活動例 13「無人島サバイバルゲーム」

限られた条件の中で必要なものを理由とともに伝えるゲーム

○目的・効果

- ・なぜその物が必要なのかを分かりやすく説明する力を育てる。
- ・互いの考えを比較しながら、よりよい理由を考える力を育てる。

○進め方とルール

- ①無人島で生活する上で3つだけでもっていてもよいものを個人で決める。
- ②グループで意見を出し合い、グループの意見として3つに絞る。
- ③グループごとに比較し、より説得力のあったものを決める。

学習ゲーム・活動例 14「ビブリオバトル」

おすすめの本を紹介し合い、一番興味・関心を持った本を決めるゲーム要素のある学習活動。

○目的・効果

- ・本を紹介し合うことを通して、読書に対する関心を高め、読書活動を推進する。
- ・相手を意識した「伝え方」「文章構成力」など、言語能力、プレゼンテーション能力を高められる。

○進め方とルール

- ①おすすめの本を決定する。
- ②紹介原稿を作成する。
- ③グループ内で順に本を紹介する。
(2～5分：実態に応じた時間設定)
- ④互いの紹介について感想交流する。
- ⑤一番興味・関心を持った本を選ぶ。
- ⑥指導者が価値づける。

(「文章構成」「伝え方・聴き方」「コメント力」「非言語(表情・うなずき等)」など)

Book

学習ゲーム・活動例 15「図形伝達ゲーム」

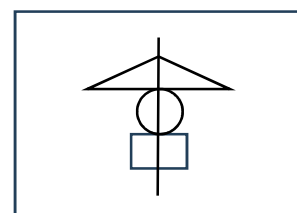
紙に書かれた絵を言葉だけで伝えるゲーム

○目的・効果

- ・紙に書かれた絵を言葉で伝えることを通して、正確に伝えるための適切な表現の仕方について考えること力がつく。

○進め方とルール

- ①(3名以上のグループで) 誰か1人が紙に書かれた図形を確認し、言葉で説明する。(5分)
※この時、ジェスチャーで伝えることは禁止する。
- ②聴き手は、話し手の説明を聞き、図形を完成させる。
- ③完成した図形を見せあい、伝え方について感想を述べ合う。



【主に中学生】

学習ゲーム・活動例 16「私にとって〇〇とは」

与えられたお題について自分とのつながりを即興でスピーチするゲーム

○目的・効果

- ・与えられたお題に関連したスピーチをその場ですぐにまとめて発表する力を育てる。
- ・お互いのスピーチを聞き、共感を示しながら聞く姿勢を身に付ける。

○進め方とルール

- ①グループの代表者を決める。
- ②担任の先生から、お題が出される。
(例) あなたにとって自動販売機とは？
- ③お題が出された5秒後から30秒間、お題と自分とのつながりをスピーチする。
- ④内容に関わらず、最後まで話そうとし続けた友だちを賞賛する。

学習ゲーム・活動例 17「通学路を説明しよう」

ある地点から学校までの道のりを言葉で正確に伝える学習ゲーム

○目的・効果

- ・相手の立場になって、正確な情報を伝えるための説明の仕方を考える。

○進め方とルール

- ①出発点とゴール（学校）を決める。
- ②地図アプリを頼りに、目印や方角、距離などを適切に言葉で伝える。（紙に書く）
 （例）北に向かって200mほど歩くと、左手に幼稚園が見えるので、そこを右折します。
 そのまま50m歩くと、右手に郵便局と美容院が見えてくるので、その間を…
- ③複数の道案内の内容を比較し、一番伝わりやすかった説明を決め、その理由を伝え合う。

学習ゲーム・活動例 18「プロコン作文コンテスト」

テーマに対して、賛成・反対の両面から作文し、ベスト1を決める活動

○目的・効果

- ・多面的な思考方法に慣れる。
- ・意見を決められた字数以内でまとめる力がつく。
- ・意見の多様性に気づき、合意形成を図る機会となる。

○進め方とルール

- ①4人組をつくる。
- ②表の中央に、友だちの意見を聞きたいテーマを書く。
 （教師がテーマを4つ決めておいてもよい）
- ③賛成1マス・反対1マスに意見を80字以内で書く。
- ④シートを順番に4人全員に回し、4人の賛成・反対でマスを埋める。
- ⑤それぞれの意見のベスト1を決める。
 （テーマが同じ場合は、クラス全体での検討も可能）

賛成4 生徒D 記入場所	反対1 生徒A 記入場所	反対2 生徒B 記入場所
賛成3 生徒C 記入場所	テーマ 「(例)職業体験をすることについて」 あなた自身の意見と関係なく、 ・賛成の意見を1つ ・反対の意見を1つ 80字以内で書きましょう。	反対3 生徒C 記入場所
賛成2 生徒B 記入場所	賛成1 生徒A 記入場所	反対4 生徒D 記入場所

学習ゲーム・活動例 19「ことわざスピーチ」

正反対のことを述べていることわざに対して、その根拠を戦わせる活動

○目的・効果

- ・根拠を丁寧に説明できるようになる。
- ・説得力のある根拠について考えを巡らせ、工夫することができるようになる。

○進め方とルール

- ①3人もしくは5人のグループをつくる。
- ②2人が正反対のことわざについて、自分の方が優れているわけを、審判にアピールする。
- ③残りの人がジャッジする。
- ④役を一つずつずらして、同様に進める。

《正反対の意味を持つことわざの例》

- 「急がば回れ」⇔「先んずれば人を制す」
 「一石二鳥」⇔「二兎を追うものは一兎をも得ず」
 「蛙の子は蛙」⇔「鳶が鷹を生む」
 「渡る世間に鬼はなし」⇔「人を見たら泥棒と思え」
 「二度あることは三度ある」⇔「三度目の正直」
 「嘘つきは泥棒の始まり」⇔「嘘も方便」



学習ゲーム・活動例 20「反駁ドリル」

課題文に出てくる人物に対して、どう反駁するかを考え交流する活動

○目的・効果

- ・「反駁するために読む」という理由が明確であるため、読解力がつく。
- ・論理的に反駁することに慣れ、さらに活動しながら論理的思考力も鍛えられる。

≪課題①≫

≪課題②≫

○進め方とルール

- ①課題文を読み、まずは個人で反駁を考える。
- ②グループで交流し、そのグループの反駁を決める。
- ③どの反駁が一番納得できるかを個人でジャッジする。
- ④全員のジャッジを基に、その課題文のナンバー 1 反駁を決め、納得した理由を交流する。

課題文例 1

日曜日の朝、近所の空き地で元気よく野球の練習をしていたら、近所のおじさんに「うるさいから静かにしてくれ」と言われた。そこで僕たちはなるべく大きな声を出さないようにして練習を続けた。しばらくすると、資源回収車が「ご家庭でご不要になりました自転車などがありましたら…」という大きな声をスピーカーで流しながらゆっくりと走ってきた。これを見て僕はおかしいと思った。「大きい声を出している」のは同じなのに、僕たちは注意され、資源回収車は注意されなかった。「大きな声」が駄目ならば、同じように注意してほしい。

「反論の技術・実践資料編—学年別課題文と反論例—」 香西秀信（明治図書 2008）」より

課題文例 2

ぼくは、卓球のスポーツ少年団に入っている。この間の日曜日は、ぼくにとって初めての卓球の試合だった。試合は八時半から始まる予定だ。ぼくはできるだけ急いで会場に向かったが、渋滞に巻き込まれて遅刻してしまった。あわてて会場にはいると、すでにぼくの不振敗が決まっていた。ぼくは泣きそうになりながら、遅れたわけを話した。しかし、聞き入れてはもらえなかった。ぼくは一月も前にエントリーしているし、参加費も払っている。だから、ぼくには卓球の試合に出る権利があるのだ。それなのに、少し遅刻したぐらいで参加させないなんておかしいではないか。

「反論の技術・実践資料編—学年別課題文と反論例—」 香西秀信（明治図書 2008）」より

学習ゲーム・活動例 21「データマッチング」

説得力を高めるために必要な資料を選択し、選んだ理由を比較・吟味する活動

○目的・効果

- ・主張の説得力を高めるために使用する資料を批判的に考察し、情報選択能力（情報活用能力）の向上を図る。
- ・様々な情報に対する批判的思考力、説得力を高めるための情報選択能力（情報活用能力）が養われる。

○進め方とルール

- ①作成した立論と複数の資料（5つ程度）を提示する。
- ②説得力が増す資料を選択し、その理由を考える。
- ③立論内容の主訴と比較しながら、よりよい資料の選択・活用について共有する。

データマッチング

課題 救急車の利用を有料にするべきである。

私は、論題「救急車の利用を有料にするべきである」に肯定側の立場で立論します。起るメリットは、「救える命が増える」です。なぜこのメリットが起るのか説明します。

理由は「軽症者の通報を減らせる」ということです。通報者の多くは、入院等の必要のない「軽症者」が約半分以上を占めており、救急車を呼ぶ必要のない場合が多くあります。寝屋川での出動回数も年々増加傾向であり、このままだと、本当に必要な時に到着が遅れ、救える命も救えなくなってしまう。中には、「救急に刺さってかゆい」「病院でもらった薬がなくなった」など、安易に救急車を利用するケースもあるそうです。海外のデータからも、有料にすると通報件数が減らせるのは明らかです。

重要性を述べます。救急車は、一人でも多くの命を救うために、救急で出動するものです。そのため、できるだけ軽微かつ緊急時の低い事案についての通報を減らすことが重要です。以上の理由から、救急車の利用を有料にするべきであると考えます。

① 過去 10 年の救急車
出場件数
(図は省略)

② 救急隊の写真
(写真省略)

③ 世界各国の救急車
要請料金
(図は省略)

④ 救急出動の原因
(図は省略)

⑤ 救急搬送の症状別の割合
(図は省略)

寝屋川市教育委員会指導主事 目作データより

学習ゲーム・活動例 22「根拠 De サッカー」

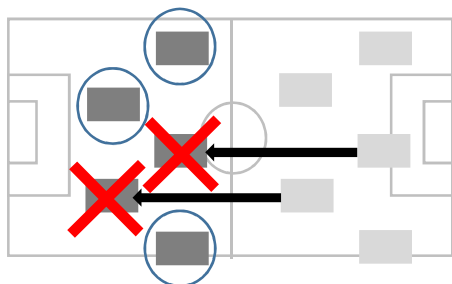
テーマに対して相手が出してきそうな「根拠のシュート」を予想して、ブロックする活動

○目的・効果

- ・多面的・多角的に物事を捉える力をつける。
- ・テーマに対する考えを予想することを通して、多面的・多角的思考力が養われる。

○進め方とルール

- ①テーマに対して、それぞれの立場で考えられる根拠（理由）を付箋にまとめる。（1枚1内容）
- ②相手の根拠（理由）を予想して、付箋を3～5枚に絞る。
- ③攻撃側から1枚ずつ付箋を出し（シュート）、守備側に同じ観点の根拠（理由）があればブロック成功。
- ④攻守交代し、シュートが多く決まった方が勝利。（多面的・多角的に見られているということ）



(例) テーマ	「夏と冬ならどちらがよいか。」
夏（シュート）	・海や川など、水遊びをする機会が多い。 ・ <u>花火大会がたくさんある。</u>
夏（ブロック）	・夏休みがある。（休みが長い） ・ <u>花火で彩られる。</u>
	・セミ（虫）とりで楽しめる。

ブロック

(2) 多面的・多角的に考える思考を鍛える

六色ハット思考法

6色の色に応じて視点を変えながらアイデアを次々に出していく思考方法。

○目的・効果

- ・「聴く」「話す」「意見を調整する」というコミュニケーションの基礎を体験的に学ぶ。
- ・物事を多角的に考察し、アイデアを整理することができる。
- ・多面的・多角的に考える視点を身に付けることができる。

○進め方とルール

- ・それぞれの視点から、グループ内で時間を設定し、順に意見を出し合う。



白色帽子	事実のみ。統計（グラフ、表）や情報。コンピューターの役割。混じりつけのない真っ白なイメージ。
赤色帽子	感情や気持ち（好き、嫌いなど）。直観や山勘。理由はなくてよい。燃える炎と暖かさのイメージ。
黒色帽子	否定（反対）的な考え。なぜそう思うのか、理由が必要。厳しい裁判官の服装の色のイメージ。
黄色帽子	肯定（賛成）的な考え。なぜそう思うのか、理由が必要。太陽の色のイメージ。
緑色帽子	新しいアイデア。違った考え方。他に良い考え方はないか。新しい生命力を生み出す植物や草木のイメージ。
青色帽子	冷静に判断する力を持っている。司会者のような役割。空のイメージ。

《進行方法》

- ①【青色】話し合いの活動のゴールを明確にする。
- ②【赤色】テーマについて自分の考えを自由に出す。
- ③【白色】テーマについての事実、関連する情報を出す。
- ④【黄色】テーマに対して前向きな意見や提案を出す。
- ⑤【緑色】テーマや④の意見に対する新しいアイデアや違った考え方はないのか出す。
- ⑥【黒色】④⑤で出された意見に対し、否定的に考えることで内容を吟味する。
- ⑦【黄色＋緑】出された提案の欠点や弱点を補強する。
- ⑧【青色】テーマ達成のための戦略を確定する。※各班の意見をまとめる。

《進行例》

青色 「今日は〇〇フェスティバルのクラスの出し物を決めましょう。『低学年も喜んでもらう出し物』がゴールです。みなさん、まずは赤色の立場で考えて下さい。」

※ここから時間を区切って、帽子の色ごとに話し合いを促していく。

赤色 「ぼくは迷路がしたいな。去年できなかったし。」「私は逃走中がいいな。楽しそう。」「…

白色 「2年生の弟がいるんだけど、次はもっといい『点数』をとりたいと言っていたよ。…」

黄色 「『点数』をつけるなら、『本日の最高点』があると、もっとやる気も出てきそうだね。」「…

緑色 「それだったら、例えば、迷路の中にクイズを取り入れることもできそう。色々なことを『組み合わせる』こともできそうだね。」

黒色 「低い点数になるとやる気がなくなるんじゃない。」「組み合わせると準備に時間がかかるよ。」「…

黄緑 「クイズだったらみんなが解けそうな『簡単なもの』と『チャレンジ問題』を入れたらどうかな。」

「準備に関しては、メインはどちらにするか明確にしてから役割分担をすればいいんじゃない」

青色 「それでは、各グループでの結論を聞かせてください。」

(3) 実態に即して様々なディベートの形を段階的に行う

- ・ 前年度までの取組や子どもの実態に即して、柔軟に形を変える等して体験させていく。
- ・ 共通の資料を活用する。（「フローシート」「司会原稿」「スピーチシート」等）

ステップ1「立論型ディベート」

論題に対してより「強い」立論を作り合うディベート

○目的・効果

- ・ より説得力のある立論の立て方が分かる（意見の強弱が分かる）。
- ・ 論理的思考力を鍛えることができる。

○進め方とルール

- ① 論題に対して、肯定側はメリット、否定側はデメリットを10個ずつ出す。
- ② 10個の中から、一番強い（説得力のある）ものを選ぶ。
- ③ （準備型であれば）証拠資料を準備する。
- ④ 肯定側立論→肯定側へ質疑→否定側立論→否定側へ質疑
※質疑は審判と教師が行う。チーム一人一人に質問する。
- ⑤ 審判と教師が判定する。

ステップ2「反駁型ディベート」

（※反駁については(3)の反駁の四拍子を参照）

立論を教師がつくり、子どもたちがその立論に対して反論し合うディベート

○目的・効果

- ・ その場で出た意見に対して反駁するため、聞く力や即興力、対応力が鍛えられる。
- ・ 相手の意見のどこに反駁するのが明確になる。

○進め方とルール

（例）5年生の社会科「森林のはたらき」の学習で、簡単な反駁型ディベート（論題「日本の小・中学生は、学校にマンガの本を持ち寄って、マンガ図書館を作るべきである」）を行い、相手の意見をよく捉え、合意しない反論を重ねていくことを試みる。

学習活動例	指導上の留意点
1. 論題とディベートの進め方について説明を聞く。	・森林を保護するために紙の節約を考えると、論題のような主張があり、その是非を討論するという目的を明確にする。 ・ディベートの進め方を説明し、役割を知らせる。
2. 肯定側、否定側の意見を読み、そこにおける議論をとらえる。	・用意していた立論を読ませ、それぞれにおける議論を図式的に板書する。 肯定側意見：「読み捨てる本が減り、紙を節約できる。」 否定側意見：「マンガに熱中し、授業に集中できない。」 ※立論の文例は、「学級ディベート」 菊池省三（中村堂 2018）P. 54 参照
3. それぞれの立場で、反駁の準備を行う。準備後、発表する。	・反駁は、相手の議論における理由の部分を否定しなければならないことを知らせ、ワークシートに記入させる。

ステップ3「立論事前提示型ディベート」

立論を事前に提示し、それに対する質問や反駁までを準備した状態で行うディベート

○目的・効果

- ・事前に質問や反駁を準備できるため、意見を述べやすくなる。
- ・事前に相手の回答や反駁を予想しやすくなるため、論理的思考の芽を育てることができる。
- ・相手の反応を予想する楽しさや、予想が当たる喜びを感じながらディベートができる。

○進め方とルール

（事前①）論題に対して、肯定側・否定側が立論を作成する。

（事前②）その立論を相手側に提示し、その立論に対する質問や反駁を考える。

①通常のディベートの流れで進める。

②ジャッジは質問及び反駁を重点的に視聴し、判定する。

ステップ4「マイクロディベート」

一人が同じ論題で全ての立場を経験できるディベート

○目的・効果

- ・すべての役割と立場を経験できることで、多角的に考えられるようになる。
- ・同じ論題で行うため、個人の考えを深めていくことができる。
- ・すべて一人で行うため、チームになったときに仲間の大切さを感じることができる。

○進め方とルール

①3人でグループを作り、「肯定側」「否定側」「審判」を交代で経験する。

②審判が理由とともにジャッジし、立場をローテーションする。

③立場が一周するまで同じ論題で行う。

ステップ5「ミニディベート」

子どもたちが考えやすい易しい論題を使って行うディベート

○目的・効果

- ・ディベートの流れをつかむことができる。
- ・与えられた立場で意見を考え、述べる練習ができる。
- ・相手の立場に立って考え、意見を聞いて考える練習ができる。

○進め方とルール

①3～4人のグループをつくる。

※3グループ1組で、「肯定側」「否定側」「審判」を交代で経験する。

②グループ内で一人一人の役割を決める。

③相手の意見を予想しながら、それぞれのセリフを考える。

※導入期は、セリフ等が入ったワークシートを活用するとよい。

④実態に即して、「立論のみ」「質疑応答まで」「第一反駁まで」等を決めて行う。

⑤審判は、視点を明確にして判定するようにする。



(4) 説得力を生むための指導を取り入れる

①三角ロジックを使いこなそう

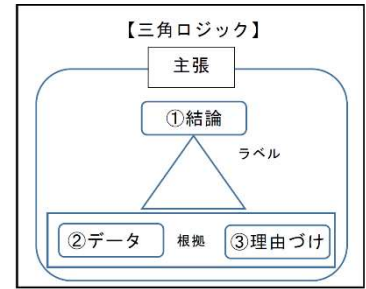
「三角ロジック」とは、「筋の通った主張」をつくる論理的思考力の基礎となる考え方のこと。かみ合った議論を行うためには、「結論」「データ」「理由づけ」の3つで議論を組み立てることが重要である。

①結 論：自分や相手の言いたいこと。意見

②データ：事実、数値、一度証明された主張、客観的な事実

③理由づけ：主張データをつなぎ合わせる考え方、判断基準

※データと理由づけの2つを総称して「根拠」とする。



(例)

①結 論：1年生と6年生の交流は「おにごっこ」がよい。(主張)

②データ：1年生にアンケートをとると「おにごっこ」が一番人気であった。(事実)

③理由付け：全員経験があり、楽しめる内容である。

ディベートでは、自分の主張を審判に納得させるため、「なぜ、そう言えるのか」という根拠が重要になる。三角ロジックを使えば、自分の主観で解釈した印象で論議することがなくなり、中身のある話し合いができるようになる。

②理由や根拠の伝え方を工夫しよう

- ・一文が長くなりすぎない
- ・いくつあるのか言う前から（ナンバリング）
※根拠の数は少ないほど議論が深まることが多い。
※肯定否定ともに「2つずつ」等、数をそろえるとジャッジも判定しやすくなる。
- ・聴き手（審判や多くの人等）に伝わりやすい言葉に言い換える。
- ・資料（データ）の出典を示す
- ・引用の始めと終わりを伝える 等

資料の調べ方

<手段>

書籍、教科書（資料集）、インターネットサイト、アンケート 等

<留意事項>

- ・信憑性の高い情報かどうか、複数の資料を比較する。
- ・情報の出典（引用先）や年代も記載する。
- ・主張に必要な情報かどうか検討、判断する。

③質疑の目的を確認しよう

質疑の目的は説明や反論ではない。まずは「分からないことを聞く」という段階から、以下のように目的によって「～です①。」「～です②。」を使い分けたり、反駁で指摘するための質問をしたりできるようにしていくとよい。その際、立論で述べられた内容について、質疑を行う。

質疑の目的

- ・相手の発言の不明な点を確認する。（～ですか。）
- ・後半の反駁の有利な点を引き出す。（～ですか。）
- ・反駁で指摘したい点を確認する。（～ですね。）
- ・相手の発言の矛盾点を明白にする。（～ですね。）



※巻末資料⑦「対話指導・活用の留意点」に具体例を記載。

《「問い」の種類》

「問い」の種類	「問い」の例
①言葉の意味や定義を問う「問い」 →言葉がどのような意味や定義で用いられているか？	〇〇の意味は？〇〇の定義は？
②原因（なぜ）を問う「問い」 →原因とその結果は何か？	なぜ〇〇は生じているのか？
③信ぴょう性を問う「問い」 →その現象が実際に生じているか？	〇〇は本当に生じているのか？
④比較を行う「問い」 →その現象の程度や新たな側面は何か？	〇〇はどの程度進んでいるのか？〈程度の比較〉
	他国ではどのくらい〇〇が進んでいるか？〈ほかの国や地域との比較〉
⑤先行研究・先行事例を問う「問い」 →これまでどのような取り組みや研究が行われてきたのか？	〇〇に対してどのような取り組みが行われてきたのか？〈これまでの取り組み〉
⑥影響を問う「問い」 →今後、どのような影響が生じるのか？ 実際に今、影響が生じているのか？	〇〇によってどのようなことが起こるのか？〈影響〉

岡本尚也（2017）『課題探究メソッド』啓林館

④「反駁の四拍子」を使いこなそう

反駁では、相手の立論（特に「理由」や「根拠」）や反駁に対して、主に、以下のような4つの手順で反論を行う。

反駁の四拍子

- ① 引用 「～と言いましたが」
- ② 否定 「それは認められません」「重要ではありません」「関係ありません」
- ③ 理由 「なぜなら、～からです」
- ④ 結論 「だから、～です」

④の結論では、自分たちの主張につなげるようにすることで、説得力が増す。
また、相手の全ての主張に対して反駁できるとよい。（可能な限り）

(5) 教科指導との関連を考える

各教科の学習指導要領を基に、カリキュラム・マネジメントの視点を持って教科指導と関連付けていくことも必要である。

例えば、どの教科においても、

- ・「自分の意見（考え）を持つこと」
- ・「考えながら聞くこと」
- ・「自分とは違う立場（方法）でも考えること」
- ・「根拠を持って意見を述べること」
- ・「聞きながら書くこと（メモをとること）」
- ・「共感的/批判的に見ること」 等、

ディベートにつながる活動や、ディベートで鍛えた力を発揮する場面がある。

また、一人一台端末等の ICT 機器活用も、情報モラルの指導と関連付けながら進めることで、各教科とディベートをつなげるツールになると考えられる。（※「11. ICT の活用について」参照）

※他にも、各教科の中での話し合い活動を「ディベート的な話し合い」にすることで、根拠を持って意見を述べたり、質問や反論を受けたりして意見を成長させていくことができる。

こうした教科指導とディベートとの関連性を、教師が意識して指導することで、児童生徒の資質・能力のさらなる向上が期待できる。

（※巻末資料「各教科との関連を図った論題」参照）

(6) “客観的”なディベートの前後で“主観的”に考える時間を持つ

・「ビフォーディベート」

論題について、主観的な意見を書く等、最初の自分の意見を表現する時間を設定する。

・「アフターディベート」

以下のA～Cのプロセスを経ることで、自身の考えの「深まり」や「よりよい変化」等に子どもたちが自覚的になる。そこから、「ディベートは意思決定や納得解を生み出すための一つの“プロセス”であること」「ディベートは物事を多面的・多角的に検証し、より深く考えるための方法の一つであること」に子どもたちが気づいていくきっかけとなる。

A.ディベートそのものについて「内省」する

B.論題について意見を再構築し、 認識の変容を「自覚化」する (自分の意見の成長に目を向ける)

C.「新たな問い」を立てる

ディベートを終えて（アフターディベート）

◎ふりかえり

これからの学習やディベートで活かせることについて書きましょう。
(論のつなげ方や、グループでの関わり方、話し方・聞き方・書き方の工夫、データの調べ方・読み取り方など)

ディベートの私の担当だった立論で、発表する時に、いつもよりは、だいぶましだったけど、少し早くても繰り返していたから、少し練習不足だったなと思いました。

そして、チーム内の話し合いは、たくさんできたと思うけど、データをもう少し調べればよかったと思いました。

◎わたしの主張

肯定側・否定側の主張をふまえて、あなたはどう考えますか。論題について自分なりの考えを200～250字でまとめましょう。

私は、「飲食店がわりばしの使用を廃止する」ことに

(賛成) 反対) です。なぜなら、

わり箸は日本産が少なく外国から輸入されているのがほとんどだから外国の森林がいくら多くてもずっとわり箸を使い続けているといつかわなくなってしまう。そして木材はわり箸だけでなく家にも家具にも使用されています。食事にはわり箸でなくてもプラスチック箸で十分困らないです。だったら木材をわり箸ではなく他のものを作るのに使えて外国の森林を守れる方がいいと思います。

したがって、私は「飲食店はわりばしの使用を廃止する」(べきだ) べきでない) と考えます。

アフターディベートのワークシート例 及び 児童の記述
(石津小6年生のワークシートを基に作成)

ディベートビフォーアフターシート		名前 ()
◎ディベートの前に		
はじめに、論題について自分の意見を書いてみましょう。		
論題「 すべきである」 私は、賛成・反対です。なぜなら	論題「 すべきである」 私は、賛成・反対です。なぜなら	
◎ディベートをふりかえる		
自分のこと（感想、反省、次にがんばりたいこと、友だちとの関わり方など）		
相手チームのよかった所について		
◎自分の意見をふりかえる		
肯定側・否定側の主張をふまえて、論題について自分の意見をまとめましょう。 (新しい考え方や、最善解も考えられるといいですね。)		
論題「 すべきである」 私は、賛成・反対です。なぜなら		
※この論題でのディベートを通して、自分の考えはどう変化しましたか。考えの「広がり」や、「深まり」などに着目して書きましょう。		
※疑問に思ったことやもっと調べたいと思ったことを書きましょう。		

《項目ごとのアフターディベート展開例》 ※分割して実施する場合

【A】ディベートを振り返る

- ①設定した目標（めあて）をもとに自分自身や友だちについて振り返ったことを記述させる。
- ②全体交流を行い、類別しながら板書する。
- ③「できるようになったこと」を指導者が価値づけ、「次の目標」を確認する。
- ④「できるようになったこと」が教科学習で活用・発揮されている場合は、その都度価値づけ、成長した自分をメタ認知させる。

【B】自分の意見（変容）を振り返る

- ①ディベートでの話し合いを踏まえた自分の意見を記述させる。
- ②「考えの逆転」「考えの広がり・深まり」の視点で自分の考えを捉え直し、その変容の要因について考えさせる。

【例】

「はじめと変わらず否定側の立場だが、分析が甘かったと思った。Aチームの議論で述べられていた『～～～』という視点は、自分は考えておらず、それも含めて考えると、やはり今回の論題を実施してしまうと■■■ということが発生してしまい、自体は想像していた以上に深刻になると思った。」

- ③全体交流を行い、類別しながら板書する。
- ④論題について「重要な視点」は何か問い返す。（抽象化、一般化）

【例】

（今後販売する自動車は、全て電気自動車にするべきだ。）

T：色々な意見が出てきましたが、今回の論題で大事にしなければならないことって何だろう？

S1：「環境への配慮」

S2：それも大事やし、「かかる費用」も含めてバランスよく考える必要があると思うな。

S3：「二酸化炭素を減らす」という目的であれば、それ以外の有効な方法がないか考えておくことも大事やと思う。

- ⑤「意見を交流する」「考えを振り返る」ことの価値づけを行い、全教科の「話し合い活動」「振り返りの時間」にいかす。

【C】新たな問いを立てる

- ①再構築した意見の交流を行う。（上記参照）
- ②児童生徒の発言をもとに、問いを焦点化する。（上記 S3 児童の発言参照）
「T：CO2 削減に向けて、世界で取り組まれていることって、他にもあるのかな？」
- ③児童生徒の発言をもとに、調査活動へつなげる。

8. ディベートの論題について

○論題作成・設定のポイント

ポイント

- ①子どもの実態に即している
(教科指導・総合的な学習の時間との関連事項・身近な事象など)
 - ②肯定・否定側に主要な議論が複数存在する
 - ・教師が、観点の違う2つ以上の立論をすぐに思いつくような論題
 - ・双方同量の議論ができそうな論題
 - ③議論が広がりすぎない(中心課題が一つである)
 - ④参加者に関連のある(社会的な)事象である
 - ⑤資料を調査しやすい
 - ⑥中立な表現で書かれている
 - ⑦ディベートを終えるまで状況が変わらない
 - ⑧学習目標が達成される
- ※これらのポイントを、「逆向き設計(バックワード・デザイン)」や教員による模擬ディベートで吟味する。

○論題例

【価値論題例】

- ・「朝はご飯よりもパンの方がよい。」
- ・「電話より手紙の方が気持ちが伝わる。」
- ・「新聞よりテレビの方が情報を得やすい。」
- ・「勉強に有効なのは、予習より復習である。」

【政策論題例】

- ・「電車の優先席は廃止すべきである。」
- ・「救急車の利用を有料にすべきである。」
- ・「レジ袋はすべて廃止すべきである。」
- ・「宿題は、すべて自主学習にすべきである。」

※その他の論題例は、巻末資料「各校実施ディベート論題事例」参照

9. フローシートについて

ディベートは「聞くスポーツ」とも言われる。選手の立場であれば、相手の話をよく聞いて、かみ合った議論や反論を展開するためにメモをとる。審判や聴衆の立場であれば、判定を出すためにメモをとる。このように議論の流れ(フロー)を書きとる用紙(シート)がフローシートである。

よって、ディベートにおいてフローシートは、なくてはならないものである。
ただし、児童の実態に応じたフローシートを活用することが重要である。(次ページ参照)

具体的な書き方の例

①関連する議論を矢印でつなぐ

立論から、質疑、反駁へと、横(もしくは縦)に展開していく。

その際に、対応する内容はそれぞれ矢印で順番につなげていくとわかりやすくなる。

②略語・符号を使う

例) メリット=M、デメリット=D、上がる・増える=↑、下がる・減る=↓、無くなる=× 等

③データなどの数値を優先して書きとる

証拠資料の中でよく出されるデータの数値は、正確に書きとらないと、正確な議論ができない。

(その他①) 納得した、説得力があると思った箇所に○をつけておく。

(その他②) 立論、質疑、反駁それぞれにおいてジャッジする(○をつける、点数化するなど)

(その他③) 学年によっては、話型を書いておく。

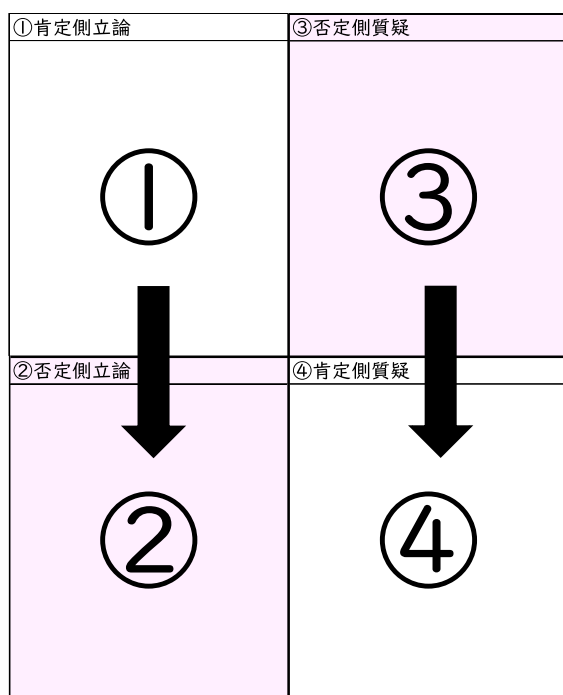
書き方指導の例

- ① モデルディベート（動画、先輩、教師等による）全部をフローシートにメモしながら視聴する。
- ② 肯定側立論の全文が印刷されたものを渡し、全てをメモする難しさや困り感を共有する。
- ③ 肯定側立論のみ視聴し、何が話されているか、何を聞き取りメモするべきか話し合う。
- ④ ③で話し合ったことを、否定側立論の視聴で実践してみる。
- ⑤ その後も「質疑のみ→反駁のみ…」というディベートの流れに沿って視聴し、書き方を確認しながら進める。
- ⑥ 視聴後、フローシートを基に、ジャッジをする。

※ディベートマッチを繰り返すだけでは、「要点を聞き取る」「簡潔にメモをとる」力はつかない。
「適切な価値づけ（フィードバック）」と「目標（課題）の明示」を行うことが重要である。

児童生徒の実態に応じたフローシートの活用例

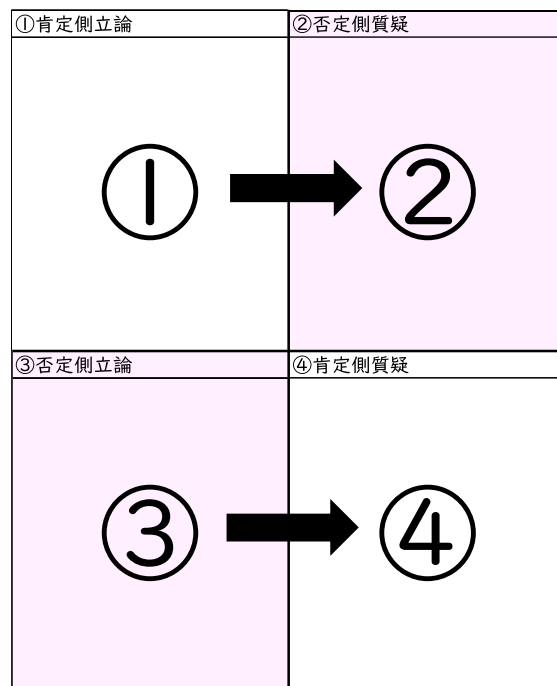
《立論→立論→（ジャッジ）→質疑→質疑…》



《メリット》

- ・立論、質疑、反駁等、「それぞれのパート（縦）の比較」がしやすい。
- ・各パートごとの判定がしやすい。

《立論→質疑→立論→質疑》



《メリット》

- ・立論、質疑、反駁の関連性など「議論（横）の流れ」を意識しやすい。
- ・立論から反駁まで一貫した主張がされているか判定しやすい。

※巻末資料「フローシート（記入用・記入例）」参照

その他各校が作成したものも、「各校作成フローシート等」として共有

10. 板書について

板書は、主にフローシートと同じ枠を設け、教師もしくは係の児童生徒が書きとる。もしくは、教師や児童生徒のフローシートを拡大提示する。

これがないと、ディベート終了後に、その議論についてフィードバックすることができない。（「議論を聞かずに板書を見て書く子が多く、聞き取って書く意識を高めたい」等のねらいがある場合は、終了後に提示してフィードバックするなどの工夫が必要）

他の活用方法として、スペースにディベーターの資料を提示しておく方法や、主張の一文を短冊に書いて貼るという方法も考えられる。

11. フィードバックの大切さについて

互いの考えの不足を補い合い、建設的な解決策を見い出すために行う「言い認め合いのディベート」という観点から、勝敗を超えた「価値」についてフィードバックを行い、児童生徒の成長を促すようにする。

子どもたちが今回のディベートでよかったことや、次のディベートに向けて何を改善すればよいのかを明確にすることが重要である。8、9で示した「フローシート」「板書」への記述や、子どもたちの姿を基に、評価規準や本時のめあて等に沿って価値付けや次への展望を伝えることが望ましい。こうしたフィードバックを行うことで、ディベートの効果がより引き出される。

ここでは参考として、ある授業者の実際のフィードバックを、板書とともに記載する。授業者は、以下のような観点を持ってディベートマッチについてフィードバックしている（学校全体の取組）。

《主な観点》

・ 情報選択含む論の構成等について

【①教科を超えた資質・能力に関わるもの】

・ 議論の仕方について（反駁を意識した質疑内容、効果的な連続質問など）

【②ディベートに関わるもの】

・ 積極的な参画について（役割の遂行、他者との関わり方など）

【③生き方・在り方に関わるもの】

論題	立論	質疑	第一反駁	第二反駁
「飲食店はわりばしの使用を廃止するべきである」 めあて 質疑の内容を活かして反駁し、自分たちの主張の正しさを伝えよう。	肯定 ① 二酸化炭素の増加を防ぐ ② 二酸化炭素排出量（全体の半分以上）を減らす（電気を節約） ③ 燃えるものを減らす ④ 地球温暖化などの問題を防ぐ	疑問 ① するともえる ② 割りばしは①と②とでいい？ ③ 割りばしは①と②とでいい？ ④ ①と②とでいい？	第一反駁 ① 間伐材のわりばしなら森林保護になる ② 中国も森林 ③ 地球温暖化抑制	第二反駁 ① 中国の森林保護はいい（中国産のわりばし） ② 吸収=排出同じ！ ③ 二酸化炭素を
否定 ① 水質汚染が進む ② 泡 → 魚に影響 ③ 界面活性剤 ④ 環境にいい洗剤は泡立ち△ ⑤ 界面活性剤 → 魚の死ぬ → 生活に影響	立論 ① 水質汚染が進む ② 泡 → 魚に影響 ③ 界面活性剤 ④ 環境にいい洗剤は泡立ち△ ⑤ 界面活性剤 → 魚の死ぬ → 生活に影響	質疑 ① ①と②とでいい？ ② ①と②とでいい？ ③ ①と②とでいい？ ④ ①と②とでいい？ ⑤ ①と②とでいい？	第一反駁 ① 川に流れているわりばしは下水処理 99.5%処理 ② 普段 お皿とわりばしは一緒に洗う	第二反駁 ① 適正な洗剤のみ 1L → 0.75mL (4割減) ② 飲食店には守られている ③ 水質汚染は起きている ④ 間伐材のわりばしなら森林は行ける

小学6年 論題「飲食店は割り箸の利用を廃止するべきである」

めあて 質疑の内容を活かして反駁し、自分たちの主張の正しさを伝えよう。

(授業者フィードバック内容)

これまで同じ論題で取り組んできて、今回が4回目でしたね。一番レベル、高くなかったですか？両チームとも、他のチームの試合を見て、こんな論が来るんじゃないかと予想して、今回のディベートに挑んでいるからこそ、ここまでのディベートになったんだと思います。

↑積極的な参画について【③生き方・在り方に関わるもの】

まず結論から言います。先生も否定側が勝利だと思いました。理由を説明します。

第1反駁までは肯定側がかなり有利だと思っていました。質疑でも聞いたことをしっかり第1反駁で反論していた。ここがポイント高かったですよね。

ただ、第2反駁のところを比べたときに、否定側は、最後しっかり立論に戻っているんですね。水質汚染の話で、最後も水質汚染に戻ってきた。間伐材の話もどうかな、と思ったんですが、間伐材の割り箸なら森林も守れるし、二酸化炭素も減らせるような話の中で、相手の立論への反論も踏まえながら、自分たちの主張を押してきた。

↑議論の仕方について【②ディベートに関わるもの】

そしてここ。印象強かったですよね。写真があって、絶対家で使うとき、こんなに（洗剤）少くないよね、という、皆さんの経験につながるようなことがあったので、より納得して、こちら（否定側）がいいなという印象を持ったと思います。

↑情報選択を含む論の構成等について【①教科を超えた資質・能力に関わるもの】

こちら（肯定側）の第2反駁もよかったんですが、やはり、最後、ここで自分たちが言いたかったこと、「二酸化炭素の増加を防いで、地球温暖化などの問題を防ぐ」というような結論をしっかり残せたら、ここもつながりのあるものになったんじゃないかな、と思います。

↑議論の仕方について【②ディベートに関わるもの】

こういう理由から、先生は否定側を選びました。

(以下、菊池省三先生フィードバック内容)

本当ね、日本広しといえども、これだけのディベートができる6年生はいないですね。いや本当にそう思いました。とても勉強になった1時間でした。ありがとうございました。

めあてがあるんですよね。それぞれの縦のつながりをしっかりやろうと。いろんな授業でも根拠を伴った意見を作る、議論を作るっていうのは大事ですよね。そうですね。これもできていますね。

「飲食店はわりばしの使用を廃止するべきである」。廃止したことによって、プラスチック箸を使うのかな。それで洗剤の水質汚染が進んでいくというデメリットが起きるということで、ちゃんと論題に合ったそれぞれの立場での縦のつながり、作っていますよね。

↑情報選択を含む論の構成等について【①教科を超えた資質・能力に関わるもの】

黒板全体見てください。横のつながり、今回の大きなめあての1つなのかな。ここ（立論）からずーっとここ（第2反駁）まで続いてくるんですよ。頭の中の「考える幅」が、この時（質疑）だけ、この時（反駁）だけを考えるんじゃないくて、幅がそうとう広がりますよね。そうですね。

普段の勉強ではないかもしれませんが。「議論が伸びる」って言うんだけど、あるいは「論をお互いが成長させ合う」と。それら全体を比較して、判定するんですよね。それができている。縦も横も。なかなかいいですよ。（次ページへ）

(前ページより) ディベートは、予想することが楽しいんですよね。相手がどう出て来るかって予想する楽しさが、ディベートの楽しさでもあるんですけど、とってもよくできていましたね。

だって質疑のところで「プラスチック箸は二酸化炭素出さないんですか？」って聞いているけど、これはきっと、「二酸化炭素が出る」というデータを持っていたから、前もってそこで聞いて、反論しようとしたんでしょね。ここもそうじゃないですか、ここも。

↑ 議論の仕方について【②ディベートに関わるもの】(全体)

それから、先生すごくびっくりしたこと見つけたんですけどいいですか。

(児童のフローシートを黒板に貼る) ○○さんのフローシート見てびっくりしたんですよ。

(質疑で) この話ありましたね。濃度。そしてここ(第一反駁)に来た。そしたらね、この○○さんのフローシートのピンクのペンで書いている矢印見てみて。

ここ(質疑)から、ここ(第一反駁)にちゃんと矢印が来てるんですよ。すごくないですか。横のつながりを、先生の黒板も参考にしながら、自分でも考えてつないでいる。この線が出ているっていうのは、「めあて」を指さして)これじゃないですか？

「質疑の内容を活かして反駁し」っていうめあてがあってディベートしていて、こうやって審判の人がちゃんと書いている。すごくないですか？じゃあ○○さんに拍手を送ろうじゃないですか(全員拍手)。

↑ 議論の仕方について【②ディベートに関わるもの】(個人)

横に伸びていく、成長していく議論を自分で聞いて記録して、それを矢印でつなげていて、どうなのかな、って考えている。

質疑から第一反駁へ相手の意見を予想して、準備している、肯定も否定も、やっぱりレベル上がっていますよね。そして、その横のつながりを、しっかりと聞き取って、判定に活かそうとする、審判の皆さんも、すごい「考えの幅」がつながって、伸びているなあ、と思ってびっくりしたんです。

↑ 議論の仕方について【②ディベートに関わるもの】(全体)

否定側が勝ちっていうことでしたけれど、最後1つだけ。皆さんすごいねえ。(第二反駁指さして)「飲食店は守れていない」って。論題は「飲食店は」って書いてあるんですよ。

「飲食店は」って決めると考えやすいけれど、決めたら決めただそのデータ集めるの大変ですよ。難しいよね。皆さん本当に難しいことやってるから、先生も作戦タイムの時に、改めてわりばしの使用についてネットで調べたんですよ。デメリット。

↑ 情報選択を含む論の構成等について【①教科を超えた資質・能力に関わるもの】

読んでみるね。ネット情報ではですよ。

「わりばしを洗うという新たなオペレーションの増加で、現場への負担が増える」

「同様に、傷んだ箸を取り除いたりする負担が飲食店では増える」

ずーっと論題からつながって行って、わりばしについて議論していったから、こうやって一般的な人々が「どっちかな」「あっちかな」って考える、そういうところにまで、考えが広がっていったんでしょね。社会的な問題ですね。皆さんの中から考え続ける人が出てくるんでしょね。だから、こうした学びを丁寧にやって、勉強に意欲的に向かっている6年生の皆さんの1時間を見せてもらって、本当に楽しかったです。これからまた、スーパースターに向けて、頑張っていってください。

↑ 積極的な参画について【③生き方・在り方に関わるもの】

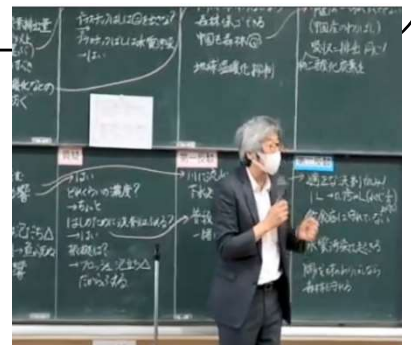
②だけでなく、①や③の観点があることが重要である。

1回のディベートマッチですべてを伝えなければならないわけではなく、取組を通して①～③をバランスよく伝えていくことで、

「ディベーターを育てるのではなく、自律した個を育てる」

「自律した個を増やすことで、集団を育てる」

ことを目指したい。



12. ICT の活用について

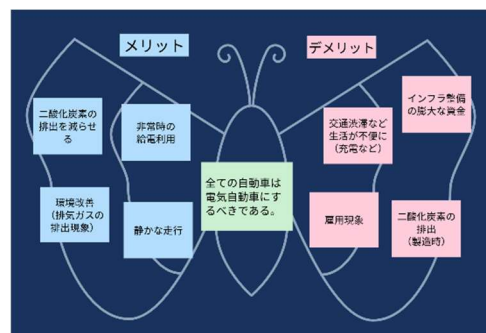
ディベートにおいても、一人一台端末等の ICT 機器を効果的に活用することで、より深い議論や思考の手助けとなる。(児童生徒の発達段階に応じて、活用方法を考える)

活用例

(ディベートマッチ以外での活用)

- ・ 情報収集
- ・ 児童生徒間での情報共有
- ・ シンキングツールによる論理構築
(KJ 法、バタフライチャート等)
- ※ロイロノートのシンキングツール活用

- ・ 立論時等での資料提示や立論自体の配布
- ・ ジャッジの判定と理由をロイロノートで提出・共有
- ・ ディベートマッチの様子を撮影し、フィードバック時に価値づけ
- ・ 板書を撮影し、次のディベートマッチに活かす



13. ディベートの評価について（参考資料）

ディベートにおける評価は、「話し合うこと」の視点や、「ジャッジ」の視点」と関連付けることが有効である。

※小学校3年生までの学年でも、こうした視点を意識し、4年生以降につなげる意識が大切である。

【“話し合うこと” “書くこと” の視点】（例①）

「話し方」「聞き方」等は、ディベートのジャッジの視点には含まれないが、こうした話し合いの基礎的な力が、ディベートを充実したものにするという観点から、ここに記載する。

※以下、小学校国語教科書（光村図書）「〇年生で学んだこと」

中学校国語教科書（光村図書）『学習の窓』一覧」

を基に作成

学年	「話すこと」に関する各学年における学び
小1	・ 聞きやすい大きさの声と速さで話す。 ・ 思ったこととそのわけを言う。
小2	・ 聞き取りやすい声の大きさや、話す速さを工夫する。 ・ 相手に正しく伝わるように話す。
小3	・ 伝えたいことに合わせて、声の強弱や話す速さなどの工夫を考える。
小4	・ 声の大きさや間の取り方資料の見せ方に気をつけて、大事なことが伝わるように話す。
小5	・ 資料の示し方や話し方、言葉の選び方を工夫して、説得力のある話をする。
小6	・ 聞き手の反応を確かめながら、話し方や表現を工夫する。
中1	・ 話す目的や話題を確認し、聞き手の反応を見ながら、話し方を工夫する。 → 声の大きさや発音、話す速さや間の取り方 → 言い換え、付け足し → 分かりやすい話の構成や表現の工夫（順序、話しはじめの工夫、体験や具体例の挿入）
中2	・ 聞き手が知りたいことや持っていない情報を予測し、客観的な事実を根拠としながら伝えたいことを明確に伝える。 ・ 情報を焦点化し、軽重をつけながら話すなど、話し方に変化をつけて聴き手を飽きさせない工夫をする。 ・ 数値をグラフや表で適切に表す。
中3	・ 聞き手の知識や関心の程度を想定し、提示する情報の順序など、話の構成を工夫する。 ・ 信頼性の高い情報を選び、種類の異なる複数の根拠を示す。

学年	「聞くこと」に関する各学年における学び
小 1	・ もっと知りたいことを聞いたり、思ったことを言ったりする。
小 2	・ 聞いたことの中から、大事なことをメモする。 ・ 質問して相手の考えを引き出す。
小 3	・ 話す中心に気を付けて聞き、どのように質問するとよいかを考える。
小 4	・ 目的と必要なことを考え、要点を短い言葉で書くなど、メモを取りながら聞く。
小 5	・ 聞きたいことを明確にし、話す人の目的を考えながら、聞いたりたずねたりする。 ・ 話を記録してまとめる時は、やり取りを正確に聞いて、要点をメモにとる。
小 6	・ 話し手が、目的や話題に沿って意見を述べ、その理由や事例として適切なものを挙げているかどうかを確かめる。
中 1	・ 相手の話に耳をかたむけ、相づちを打ったりうなずいたりしながら、誠実な態度で聞く。 ・ 相手が答えやすいように質問のしかたを工夫する。 → 「はい」「いいえ」で答えられる質問から、自由に答える質問へと展開する。 （「絞る質問」と「広げる質問」の区別） → 相手の言葉を引用して質問したり、話の内容を言い換えて相手の意図を確かめたりする。
中 2	・ 話し手の考えを踏まえ、明確で具体的な質問を心がける。 ・ 一問一答で終わらないよう、相手の答えを受けて質問する。 ・ 用意した質問より、話を聞いて生まれた疑問や感想を大切にする。
中 3	・ 相手の立場に寄り添って聞く。 ・ 自分の知識や経験などと結び付け、話の展開を予測する。 ・ 用意した質問にとらわれず、話の流れの中で臨機応変に質問する。 ・ 相手の反応や表情に注意する。

学年	「話し合うこと」に関する各学年における学び
小 1	・ はなしたり、きいたり、はなしあったりして、気がついたことを伝え合う。
小 2	・ 友達の考えを聞いて、自分の考えと同じ所や違う所を見つけたり、思ったことを話したりする。
小 3	・ 目的と決めること、役割、進め方を確かめ、互いの考えを認めながら話し合う。 ・ どうやって決めるかを意識して、出た意見の同じ所や違う所を整理しながら、考えをまとめる。
小 4	・ 目的と議題、役割、進め方を確かめ、出された意見を整理しながら話し合う。 ・ 自分の考えとその理由を明らかにして、発言したり質問したりする。 ・ 整理した意見の中から、目的と決め方に合わせて、結論を出す。
小 5	・ たがいの考えのよい所や問題点を比べて、どちらに説得力があるかを考える。 ・ 進行計画に沿って話し合い、質問を通して考えを広げ、条件に沿って考えをまとめる。
小 6	・ 自分の考えと比べる、共感したり納得したりできる点を取り入れるなどして、考えを深める。 ・ 自分の主張や理由、根拠を明らかにして話し合いにのぞむ。 ・ 考えを広げる話し合いと、まとめる話し合いをくり返して、結論に向かう。
中 1	・ 話し合いの目的や話題を確認し、自分の考えを持って参加する。 ・ 共通点と相違点に空位しながら聞き、他の人の意見と結びつけて質問したり、自分の考えと関連づけて述べたりする。 ・ ポイントを文字や図で整理したり、話題を確認し合ったりして、話し合いの展開を考える ・ 話がそれた時は、進行役が軌道修正し、元の話題に戻す。
中 2	・ 用語の定義を確認し、共有する。 ・ 意見を裏付ける根拠（客観性の高い事実）を複数集め、意見と適切に結びつけて話す。 ・ 相手がどのような根拠を基に意見を述べているのか傾聴し、意見の背景を理解する。 ・ 互いの考えの共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて質問したり反論したりする。
中 3	・ 論点や検討のポイントを可視化して共有する。 ・ 提案を検討する観点を決め、整理（座標軸など）し、共通点で分類し、小見出しをつける ・ 提案を吟味し、取捨選択して、よりよい案に絞り込む。 ・ 互いの意見のより所を組み合わせる新案に提案する。

学年	「書くこと」に関する各学年における学び
小 1	・説明の順に気をつけて書く。
小 2	・組み立てを考えて書く。(「はじめ」「中」「終わり」) ・順序が分かる言葉を使って書く。
小 3	・相手にとって必要なことを意識して、様子などが詳しく伝わるように書く。 ・内容のまとまりごとに段落を分け、読む人に分かりやすい順序を考える。
小 4	・書く目的に沿って、考えに合う理由や具体例を挙げ、各々の関係が分かるように書く ・知らせたいことや読みやすさを考えて、見出しや本文、写真や図等の割り付けを考える。
小 5	・伝えたいことに沿って必要な情報を選び、内容ごとにまとまりを作ったりする。 ・主張と根拠、譲歩をどう示すか工夫するなど、構成の効果を考えて書く。 ・資料から読み取れることと自分の考えを区別し、資料と文章の対応が伝わるように書く。
小 6	・事実と意見との結び付きを明確にし、文章の筋道を整える。 ・伝えたいことに合った文章を引用したり、写真などを用いたりする。
中 1	・目的や相手に応じて、書くべき情報の優先順位を考える。 ・根拠となる事実を明確に示すとともに、必要な情報が明確に伝わるように構成する。
中 2	・多様な方法で集めた情報を複数の情報源で確かめ、信頼できる情報を選ぶ。 ・具体的な説明を入れたり、効果的な語句・表現を用いたり、用件を端的にまとめたりする
中 3	・論理の展開を考える時は、意見と根拠、意見と根拠を結び付ける「理由づけ」を整理する ・目的や意図に応じて論理の展開や表現の仕方を工夫する。

【“話し合うこと” “書くこと” の視点】(例②)

		小学校			中学校	
		低	中	高	前	後
話すこと	相手の話を受け、話題に合わせて話す。	◎	○	○		
	伝えたい事柄を整理して話す。		○	○	○	
	絵や掲示物などを活用して話す。	○	○	◎	◎	
	根拠や例の言い方に注意して話す。		○	◎	◎	
	事実と意見を区別して話す。			○	○	◎
	対立する立場の意見をとらえ、反駁する。			○	○	◎
	効果を考えて話の構成を工夫する。			○		◎
聞くこと	細部にわたる事柄について聞き分ける。			○	◎	
	事象と感想・意見との関係を考えながら聞く。		○	◎	◎	
	話の内容と自分の生活や意見とを比較しながら聞く。		○	○	◎	
	主張とそれを支える根拠との関係を考えながら聞く。		○	◎	◎	◎
	複数の発言の共通点と相違点とを区別して聞く。			◎	◎	◎
	話の内容の不足している点を考えながら聞く。			○	○	◎
	他の情報と比較しながら聞く。			○	◎	◎
書くこと	話の内容に対して、反論しながら聞く。				◎	◎
	聞いた内容をメモに整理する。		○	◎	◎	
その他	論のつながりがわかるように書く。			○	○	○
	自分の役割を理解する。	○	○	◎	○	
	グループで協力して、意見を組み立てる。		○	○	◎	
	話し合い全体の内容をまとめる。			○	◎	◎

【“ジャッジ”の視点】（例）

		小学校			中学校	
		低	中	高	前	後
主に立論	立論の根拠が正しく、確実なものであったか。		○	◎	◎	◎
	証拠資料（データ）はあったか。		○	◎	◎	◎
	証拠資料（データ）は最新のものであったか。			○	○	◎
	資料や事実を、出典を明らかに示していたか。		○	○	○	◎
	事実と解釈を正しく認識し、適切に使っていたか。			○	◎	◎
	伝え方に工夫があったか。			○	○	○
主に質疑	相手側立論の弱点（不確実な点）をつけていたか。			○	○	◎
	質問に対する応答が適切であったか。		○	○	◎	◎
	相手の言葉を引用して質問ができていたか。		○	○	◎	◎
	反駁につながる質問ができていたか。			○	○	○
主に反駁	相手の言葉を引用して反駁ができていたか。			○	○	◎
	相手の主張の認められない点を、根拠を示して指摘できていたか。				○	○
その他	全体をふまえて結論をうまくまとめていたか。			○	○	◎
	一人ひとりが積極的に参加していたか。		◎	◎	◎	◎
	チームとして協力し合っていたか。		◎	◎	◎	◎
	感情的になったりせず、態度・話し方は適切であったか。		○	◎	◎	◎
	最後まであきらめず、自分の役割を果たそうとしていたか。		◎	◎	◎	◎

すべてを一度に評価するのではなく、上記の視点を参考に、各校・各学年が、児童生徒の課題や実態に合わせ、追加/削除したり修正したりして評価を考えていくことが大切である。

【ジャッジシート（例）】

●各観点を数値で総合的に判断するジャッジシート

ディベート ジャッジシート テーマ：_____

月 日

判定：この試合は（ 賛成側 ・反対側 ）の勝利

年 組 番 名前

賛成側(肯定側)					合計		反対側(否定側)					合計							
ある					ない														
54321					①立論の説得力					ある					ない				
54321					②立論のデータ					54321					54321				
ある					ない														
54321					③質疑の的確性					ある					ない				
54321					④応答の適切さ					54321					54321				
返答できている					返答できていない														
54321					⑤第一反駁					相手の立論を崩した					崩せなかった				
54321					⑥第二反駁					54321					54321				
相手の立論を崩した					崩せなかった														
54321					⑦班の協力					相手の立論を崩した					崩せなかった				
54321					⑧聞く態度・話し方					54321					54321				
協力していた					協力していなかった														
54321					適切である					適切でない					適切でない				
54321					良い点					良い点					良い点				
54321					改善点					改善点					改善点				

①立論の内容が根拠やデータをもとに主張できているか。主観だけの場合はマイナス

②立論に出典（どこから引用したか）を主張できているか

③④質疑：質問が的確にできているか。応答：相手の質疑にきちんと返答できているか。データを用いれば高得点。

⑤⑥第一反駁：相手の主張の弱点をつき、相手の立論を崩せたか。第二反駁：自分たちの意見を主張しながら立論を崩せたか。

●観点を絞り、論理の一貫性を比較・判断するジャッジシート

ジャッジの観点		フローシート 名前 ()			
項目	心相 手ま えの なが 論ら に効 果的 に反 駁で きて いる 内容 か。	論題：飲食店は、わりばしの使用を廃止するべきである			
		肯定 ①立論【2分】	否定→肯定 ②質疑【1分】	否定 ⑤第一反駁【1分】	肯定 ⑧第二反駁【1分】
		否定 ③立論【2分】	肯定→否定 ④質疑【1分】	肯定 ⑥第一反駁【1分】	否定 ⑦第二反駁【1分】
肯定側					
否定側					



《第一反駁》



《第二反駁》

14. ディベートに関する指導例

※「立論」「反駁」「質疑」の全てにおいて下記資料を活用した場合を想定する。

立論勝負

論題 読書感想文の題材としてマンガも認めるべきである。

私は、論題「読書感想文の題材としてマンガも認めるべきである」に肯定側の立場で立論します。起きるメリットは、「読書が苦手な人も楽しく取り組める」です。なぜこのメリットが起きるのか説明します。理由は2つあります。

1つ目は、「マンガは親しみやすい」ことです。実際に4～6年生の計250人に「マンガは好きですか?」という項目でアンケートをとると、95%が好きだと回答しました。文字だけの本を苦手としている人たちも全員が「好き」と答えていました。

2つ目は、「感想を書きやすい」ことです。実際に、「マンガ感想コンクール」というものが存在し、そこで斎藤孝さんも「文章を書くのは苦手な人でも、マンガの感想文なら書きたくなると思います。なぜなら、好きだという思いがあふれて、書くエネルギーになるからです。」と言っています。みなさん、好きなマンガであれば、書けそうな気がしてきませんか?

重要性を述べます。感想文を書く目的は、その本の魅力を文章化し、人に伝えることです。感想文をきっかけに読書をするわけではありません。本を苦手としている人にとっても、有意義な活動とするために、読書感想文の題材としてマンガも認めるべきであると考えます。

私は、論題「読書感想文の題材としてマンガも認めるべきである」に肯定側の立場で立論します。メリットは「読書が苦手な人も楽しく取り組める」ことで、その理由は「マンガは親しみやすい」ということです。私の友達に「マンガは好きですか?」と聞いた所、3人とも「好き」と言っていたので、かなり高い確率で、文字だけの本を苦手としている人にとっても、マンガは親しみやすいと言えるでしょう。また、「感想を書きやすい」という理由もあります。実際に、「文章を書くのは苦手な人でも、マンガの感想文なら書きたくなると思います。なぜなら、好きだという思いがあふれて、書くエネルギーになるからです。」とテレビで誰かが言っていました。

重要性を述べます。読書感想文の題材としてマンガを認めると、読書が苦手な人も楽しく取り組みます。

《寝屋川市教育委員会指導主事 自作データより》

《立論》

ねらい 説得力のある文章構成に必要な視点を理解する。

指導の手順

- (1) どちらの説得力があったのかを尋ねる。
 - (2) 挙手で意見表明させた後、理由を考えて記述させる。
- ※この時、「理由の個数」も問うことで効果が高まる。
- (3) 児童生徒の発言をもとに、視点を板書する。
 - (4) 学級掲示としながら、立論作成時だけでなく全ての教科で活用する。



- ◆ナンバリング ◆数値の活用
- ◆文章の区切り ◆問いかけ表現
- ◆アンケートの対象や母数
- ◆出典(誰が言っているのか)
- ◆事実と感想の区別
- ◆文末表現(断定と伝聞)
- ◆メリットと重要性の区別
(メリットを繰り返さない) 等

《反駁（第二反駁）》

ねらい 文句と反駁を区別するとともに、反駁の仕方を理解する。

指導の手順

- (1) 立論内容に対して反論がある箇所を問う。
- (例) 「そもそも苦手な人がどれだけいるのかが書かれていない。」
「そもそもの読書感想文の目的と違うと思う」
「読書感想文とマンガ感想コンクールは別物なので例として妥当ではない」
- (2) 反駁の四拍子をもとに、反論を記述させる。



- (例) ①先程、立論で「マンガ感想コンクール」を例に取り上げましたが、
②それは認められません。
③読書感想文とマンガ感想コンクールは別物なので例として妥当ではありません。
④よって「マンガ感想コンクール」は認められません。

- (3) 反駁内容の不十分さを検討させ、修正する。

- (例) 説得力がない。→なぜ「別物」であり、取り上げることが適切でないのか説明が不十分。
- ③読書感想文とマンガ感想コンクールは別物なので例として妥当ではありません。
読書感想文は「読書のすばらしさを体験させ、読書の習慣化」を図ることが目的です。一方、マンガ感想コンクールは、「マンガを読んで楽しんでもらいたい」ことが目的なため、読書感想文の目的とは合致しません。つまり、マンガがいくら親しみやすく、感想を書きやすくとも、それが読書感想文の目的とどのようにつながるのか述べられていなければ、意味はありません。
- ④よって、「マンガ感想コンクール」を例に挙げ、根拠とするのはふさわしくありません。

- (4) 「反駁の手順（仕方）」と「必要な観点」を確認する。
 - ・「反駁の4拍子」をもとに、理由を詳しく説明できなければ効果的に反駁にならない。
 - ・データがあればなお良いが、なくても順序立てて説明するとよい。 等
- ※第二反駁の場合は、子どもたちが考えた反論をもとに、再反論の内容を考えるとよい。

《質疑》

ねらい 質問の種類と質問の仕方を理解する。

指導の手順

- (1) 「立論勝負」の資料を提示し、分りにくい所がないか尋ねる。
(例) 「『マンガ』とは具体的にどういうものを指しているのか」
「マンガ感想コンクールとはどのようなものか」
- (2) 「確認」するための質問があることを確認する。
- (3) 立論内容に対して反論する箇所がないか問う。
(例) 「そもそも苦手な人がどれだけいるのかが書かれていない。」
「そもそもの読書感想文の目的と違うと思う」
「読書感想文とマンガ感想コンクールは別物なので例として妥当ではない」
- (4) 反論につながる質問はどのようなものか考える。
(例) 「そもそも苦手な人がどれだけいるのかが書かれていない」
➡現状のままで困ることは何ですか？
➡苦手な人はどれだけいるのですか？
「そもそもの読書感想文の目的と違う」
➡「マンガ感想コンクールの目的は何ですか？」
- (5) 学習のまとめとして「質問の種類」を確認する。
 - ①「確認するための」質問
 - ②「反論につなげる」質問



質の高い話し合いは楽しい

噛み合った議論は面白い



意見を成長させ合うことは楽しい！

《参考資料》 ◆-----◆

- 菊池省三/菊池道場, 「学級ディベート」, 中村堂, 2018
菊池省三, 「菊池省三の話し合い指導術」, 小学館, 2012
菊池省三/池亀葉子, 「『話し合い力』を育てるコミュニケーションゲーム 62」, 中村堂, 2015
吉川芳則, 「話すこと・聞くことの活動アイデア 44」, 明治図書, 2019
池田修, 「中等教育におけるディベートの研究」, 大学図書出版, 2008
香西秀信, 「反論の技術・実践資料編ー学年別課題文と反論例ー」, 明治図書, 2008
岡本尚也, 「課題探究メソッド」, 啓林館, 2017

《巻末資料》 ◆-----◆

- 「年間指導計画例（4年生～中学3年生）」
「ねやがわディベート 年間カリキュラム（例）」
「フローシート（記入用・記入例）」
「話型指導・活用の留意点」
「ねやがわディベート論題集」
 - ①各校実施ディベート論題事例
 - ②各教科との関連を図った論題（小学校）
 - ③各教科との関連を図った論題（中学校）

考える力を身に付けた たくましく生き抜く「個」の育成

～ 0 歳から15歳までの15年一貫教育（発達と学びの連続性）～

【目的】

「エージェンシー教育」と「ディベート教育」を円滑に接続し、0 歳から15歳まで一貫性・連続性をもって「考える力」を育み、多様な他者と当事者意識をもって対話を行い、問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」を育てることを目指します。

【目指す子ども像の具体的な姿（例）】

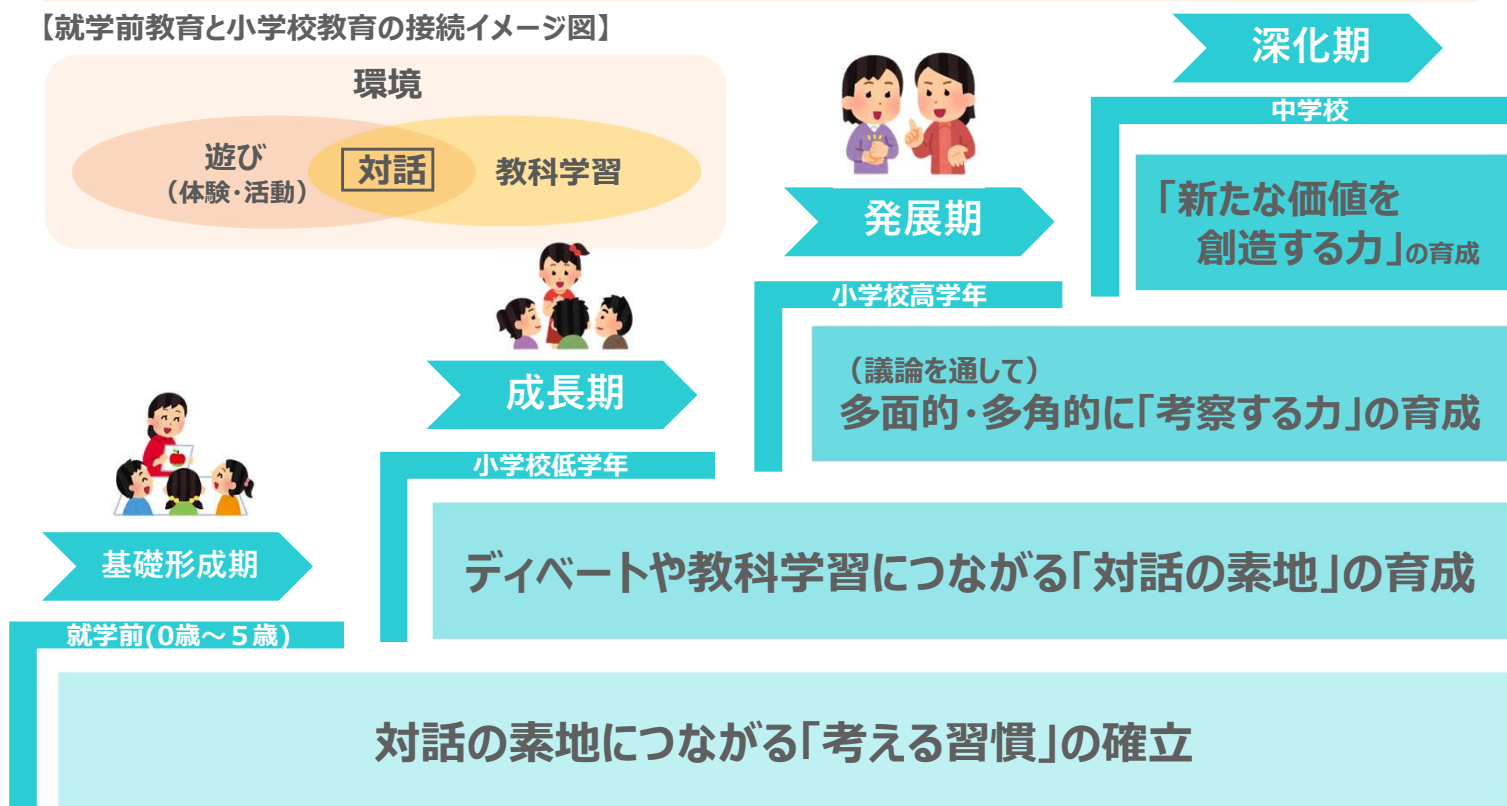
自分たちのディベートマッチが終わっても、出場生徒全員が持っていたプリントの裏紙を使つてのフローシートを記入、作戦タイムでは立論分析や自分たちならどう反駁するか話し合っている姿が印象的でした。勝敗関係なく、とにかくディベートを楽しもうとするところまで成長してくれました。

また、子どもたちは、本選で勝ちたい思いを持ちながら、もし負けても相手をたたえるディベートをしようという思いで本選に臨んでいました。予選の際、相手校が自分たちの負けがわかった瞬間、拍手でお互いをたたえる姿に、生徒たちは感銘を受けていたからだと思っています。

「D-1グランプリ2024 教職員アンケート」より一部抜粋



【就学前教育と小学校教育の接続イメージ図】



エージェンシー教育

ディベート教育

「どっち、どっちタイム」

日常の色々な取組の中で、2つの選択肢のうち、どちらかを選び、理由とともに発表したり、問いたりする「対話」を重ね、「考える習慣」を身に付けます。

「ディベート的な話し合い」 「かんたんディベート」

国語、生活、特別活動の時間を中心に、ディベート的な話し合い等を行いながら対話の素地を養います。

「準備型ディベート」

見出した問題（論題）について根拠を示しながら議論し、多面的・多角的に考察する力を育みます。

「即興重視型ディベート」

既存の知識や収集した情報をもとに論理を組み立て、議論を通して新たな価値を創造する力を育みます。

ディベート教育 言語能力育成 年間実施計画【例】(35時間)

回	日程		1年生		2年生	3年生
1	4月2週					
2	4月3週		◆言葉あそび2時間【特活:D冊子P5】 ◆(絵本について) OOとOO、どちらが好き?【国語:上P10】		◆外遊びと教室遊び、どちらにする?【特活】 ◆言葉あそび・言葉あつめ2時間【特活:D冊子P5】	◆どちらが好きスピーチ【総合:D冊子P7】 ◆よってたかって質問ゲーム【総合:D冊子P7】 ◆1年生を迎える会での、よりよい伝え方について話し合う【特活】
3	4月4週	多層指導モデルMIM(計5時間)		多層指導モデルMIM(計6時間)		
4	5月2週		◆言葉あつめ【特活:D冊子P5】 ◆ドッジボールとおにごっこ、どちらが好き?【国語:上P26】		◆教室で飼うなら、OOとOO、どちらがいい?【国語:上P56】 ◆やさしい「種」から育てるか。それとも、「苗」から育てるか。【生活:P16】	◆もっと知りたい、友だちのこと【国語:上P45】 ◆きちんと伝えるためには【国語:上P48】 ◆花の水やりは、係が行うか。それともクラス全員が順番で行うか。【理科・特活】
5	5月3週					
6	5月4週					
7	6月1週					
8	6月2週		◆夏と冬、どちらが好き?【生活】 ◆言葉あつめ【特活:D冊子P5】		◆びったりスピーチ【国語:特活:D冊子P6】 ◆よってたかって質問ゲーム【特活:D冊子P6】	◆全体と中心【国語:P65】 ◆りいは、その後うさぎを飼いたのだから。【国語:P71】 ◆引用するとき【国語:P96】 ◆蝶はそのま学校で飼うか。それとも自然に返すか。【理科】
9	6月3週					
10	6月4週					
11	7月1週		◆絵をかくことと物をつくること、どちらが好き?【国:上P80】		◆あった方がいいのは、「空飛ぶくつ」か。それとも「どこでもドア」か。【国語:上P90】	◆小学生は、9時までに寝るべきである。【保健:P42】 ◆夏休み中の学習は、いつ(朝、昼、夜)するのがよいか【特活】
12	7月2週					
13	9月1週	多層指導モデルMIM(計7時間)		多層指導モデルMIM(計7時間)		
14	9月2週		◆OOとOO、Aさんにおすすめするならどっち?【国語:上P94】 ◆学校で生き物を飼った方がよいかどうか。【生活:P52】		◆「お話の本」と「ずかん」、どちらが好き?【国語:上P96】 ◆クラスの生き物の世話は、「係」が行うか。それとも、「クラス全員」が順番で行うか。【生活:P50】	◆こんな係がクラスにほしい【特活・国語:上P122】 ◆係活動は、2つまでしてよいかどうか。【特活】 ◆ボスターを読もう【国語:P124】 ◆店の人へのインタビューの仕方を考えよう【総合・社会】
15	9月3週					
16	9月4週					
17	10月1週					
18	10月2週		◆どの場面のためきが一番好きですか?【国語:下P44】 ◆教室で飼う生き物を増やした方がよいかどうか。【生活:P52】		◆お手紙は、「かたつむりくん」ではなく、「とりさん」に届けてもらったほうがよかったかどうか。【国語:下P13】 ◆家で飼うなら、犬とネコ、どちらがいい?【生活科】	◆なぜ・なぜならゲーム【総合:D冊子P7】 ◆でもでもボクシング【総合:D冊子P8】 ◆「ひまわり」の表現の仕方は、ゴッホがよいか。それとも葛飾北斎がよいか。【図工:上P26】 ◆学校給食はお弁当に変えるべきだ【総合】 ◆①給食とお弁当のメリットをポストイットに記入
19	10月3週					
20	10月4週					
21	11月1週					
22	11月2週		◆(昔話について) OOとOO、どちらが好き?【国語:下P60】 ◆教室で飼う生き物と野生の生き物、どちらが幸せか。【生活:P52】		◆まちなんけんの発表会では、クイズも入れてよいかどうか。【生活科】 ◆材料を探しにいくのは、OO公園がよいか。それとも、OO公園がよいか。【図工:下P42】	◆運動会で使用したもので「なりきり作文」【特活】 ◆なりきりインタビュー【総合:D冊子P8】 ◆学校給食はお弁当に変えるべきだ【総合】 ◆②似ているものを分類して、優先順位を考える ◆③グループで発表し、質問もし合う。
23	11月3週					
24	11月4週					
25	12月1週		◆お楽しみ会は、他のクラスと一緒にするか、別々ですか。【特活】 ◆教室で飼う生き物を逃がした方がよいかどうか。【生活:P52】		◆お楽しみ会は、全員遊びをするか。それとも、グループの出し物にするか。【特活】 ◆正月におみくじはひいた方がよいか。引かない方がよい。【特活】	◆お楽しみ会の役割のかけもちもちは認めるかどうか。【特活】 ◆学校給食はお弁当に変えるべきだ【総合】 ◆④交流した意見をもとに、自分の考えを伝え合う。
26	12月2週					
27	12月3週					
28	1月2週	多層指導モデルMIM(計4時間)	◆どの動物を調べてみたいですか?【国語:下P80】 ◆工作の贈り物がいいか、1つの場所に飾り付けがいいか、どちらがいい?【図工:上P54】	多層指導モデルMIM(計4時間)	◆感謝の気持ちは手紙で伝える方がよい。それとも、直接言葉で伝えた方がよい。【生活:P108】	◆動物園と野生の動物、どちらが幸せか ◆①動物園と野生の動物のメリットをポストイットに記入 ◆②似ているものを分類して、優先順位を考える ◆③グループで発表し、質問もし合う。
29	1月3週					
30	1月4週					
31	2月1週		◆どのお店屋さんにしたいですか?【国語:下P94】 ◆OOコーナーを増やした方がよいかどうか【生活:P114】		◆聞いてつくる!クイズ大会【特活:D冊子P6】 ◆お楽しみ会でみんな遊びは、運動場ですか。それとも体育館ですか。【特活】	◆何を伝えたくて、それぞれの写真を使おうと思ったのでしょうか。【国語:下P116】 ◆お気に入りの場所、教えます【国語:下P118】 ◆動物園と野生の動物、どちらが幸せか ◆④交流した意見をもとに、自分の考えを伝え合う。
32	2月2週					
33	2月3週					
34	3月1週		◆みなさんだったら、子犬をもらいますか?【国語:下P108】 ◆一番楽しかった季節はどれですか?【生活】		◆「今年一番成長したことはOOです。」【国語・生活】	◆豆太は変化したかどうか。【国語:下P121】 ◆小学校のかばんは自由にすべきである【理科:P160】
35	3月2週					

※上記内容は【一例】である。「児童の実態(想いや願いを含む)」や「ねらい」に応じ、柔軟に指導内容を考えることが重要である。

※1、2年生の「MIM-PM」は、原則、朝学習や授業時間のはじめの時間を活用して、モジュールで実施することを想定している。

なお、カウントの仕方は「2週間で1カウント(45分間)」とする。

【例】5月3週目➡計20分実施(10分+10分)、5月4週目➡計25分実施(10分+15分)

ディベート教育 言語能力育成 年間実施計画【例】(35時間)

回	日程	4年生	5年生	6年生
1	4月2週	オリエンテーション(話し合いの目的)	オリエンテーション(話し合いの目的)	オリエンテーション(話し合いの目的)
2	4月3週	コミュニケーションゲーム(関係性)	コミュニケーションゲーム(関係性)	コミュニケーションゲーム(関係性)
3	4月4週	コミュニケーションゲーム(関係性)	六色ハット思考法	六色ハット思考法
4	5月2週	立論勝負(説得力があるのはどっち?)	立論提示型D(②団を整理しよう)	立論提示型D(②団を整理しよう)
5	5月3週	立論勝負(実際に書いてみよう)	立論提示型D(立論を考えよう)	立論提示型D(立論を考えよう)
6	5月4週	立論勝負(比べてみよう)	立論提示型D(立論を完成しよう)	立論提示型D(立論を完成しよう)
7	6月1週	立論勝負(書き直してみよう)	立論提示型D(質・反を考えよう)	立論提示型D(質・反①②を想定しよう)
8	6月2週	立論勝負(グループ対抗戦)	立論提示型D(質・反を考えよう)	立論提示型D(質・反①②を想定しよう)
9	6月3週	行事作文(理由を3つ)	立論提示型D①(ジャッジは聴衆)	立論提示型D①(第二反駁まで)
10	6月4週	コミュニケーションゲーム(質問)	立論提示型D②(ジャッジは聴衆)	立論提示型D②(第二反駁まで)
11	7月1週	コミュニケーションゲーム(質問)	立論提示型D③(ジャッジは聴衆)	立論提示型D③(第二反駁まで)
12	7月2週	コミュニケーションゲーム(質問)	アフターD(GOOD・IMPROVE)	アフターD(GOOD・IMPROVE)
13	9月1週	質問してみよう(先生の立論に)	D-I 論題(②団を考えよう)	行事作文(譲歩構文)
14	9月2週	質問してみよう(自分たち立論に)	D-I 論題(立・質・反を考えよう)	反論をしてみよう(反論+主張)
15	9月3週	学級ディベート(理由を考えよう)	D-I 論題(立・質・反を考えよう)	Dマッチ(②団を考えよう)
16	9月4週	学級ディベート(比べて質問しよう)	D-I 論題(立・質・反を考えよう)	Dマッチ(立・質・反を考えよう)
17	10月1週	行事作文(問いかけ)	D-I 論題(立・質・反を考えよう)	Dマッチ(立・質・反を考えよう)
18	10月2週	Dマッチ(KJ:メリットを考えよう)	Dマッチ①(第一反駁)	Dマッチ(立・質・反を考えよう)
19	10月3週	Dマッチ(KJ:メリットを比較しよう)	Dマッチ②(第一反駁)	Dマッチ(立・質・反を考えよう)
20	10月4週	Dマッチ(KJ:メリットを絞ろう)	Dマッチ③(第一反駁)	Dマッチ①(第二反駁)
21	11月1週	Dマッチ(理由を考えよう)	アフターD(GOOD・IMPROVE)	Dマッチ②(第二反駁)
22	11月2週	Dマッチ①(質問:全体・審判:先生)	D-I 予選会	Dマッチ③(第二反駁)
23	11月3週	Dマッチ②(質問:全体・審判:先生)	中間・ふり返り作文(抽象⇒具体)	アフターD(GOOD・IMPROVE)
24	11月4週	Dマッチ③(質問:全体・審判:先生)	ビブリオバトル①(ルール・モデル動画)	ビブリオバトル①(内容を構成)
25	12月1週	アフターD作文(理由3つ)	ビブリオバトル①(内容を構成)	ビブリオバトル①(伝える練習)
26	12月2週	作文交流(何ができるようになったか)	ビブリオバトル①(伝える練習)	ビブリオバトル①(班交流⇒代表者)
27	12月3週	コミュニケーションゲーム(反論)	ビブリオバトル①(班交流)	ビブリオバトル①(決勝戦:審判:全員)
28	1月2週	反論してみよう(先生の主張)	反論してみよう(第1反駁に対して)	即興型ディベート(先生-全員)
29	1月3週	反駁型D(KJ:②団を考えよう)	第二反駁を考えよう(11月作成内容)	即興型ディベート①(論理)
30	1月4週	反駁型D(KJ:立論を作ろう)	第二反駁Dマッチ①②③	即興型ディベート②(論理)
31	2月1週	反駁型D(KJ:立論を完成させよう)	ビブリオバトル②(内容を構成)	即興型ディベート③(論理)
32	2月2週	反駁型D①(質疑なし:審判は全員)	ビブリオバトル②(伝える練習)	アフターD(即興・論理構成について)
33	2月3週	反駁型D②(質疑なし:審判は全員)	ビブリオバトル②(班交流⇒代表者)	作文(ディベートの価値とは)
34	3月1週	反駁型D③(質疑なし:審判は全員)	ビブリオバトル②(決勝戦:審判-全員)	作文交流(互いの成長を認め合う)
35	3月2週	1年間の振り返り	1年間の振り返り	1年間の振り返り

※上記内容は【一例】であり、そのまま実施するだけでは十分な効果を得られない。

「児童の実態」と「ねらい」に応じ、柔軟に指導内容を考えることが重要である。

※上記内容は、「言語能力の育成」を主の目的として実施内容を構成したものであることに留意すること。

総合的な学習の時間のテーマと関連づけた論題を扱うことで、「認識」の深化・拡張を促すことができる。

ディベート教育 年間実施計画【例】(35時間)

◆中学校は「議論の質」を高め、論題に対する「認知の深化・拡張」を図ることを目的とする。

回	日程	中学1年生	中学2年生	中学3年生	
総合のテーマ		防災学習	キャリア教育(勤労)	平和学習	
1	4月2週	オリエンテーション(話し合いの目的)	オリエンテーション(話し合いの目的)	オリエンテーション(話し合いの目的)	
2	4月3週	コミュニケーションゲーム(関係性)	コミュニケーションゲーム(関係性)	コミュニケーションゲーム(関係性)	
3	4月4週	論題の背景を考える(現状-理想)	即興型ディベート①(第二反駁)	即興型ディベート①(第二反駁)	
4	5月2週	立論提示型D(KJ法-㊟団を考える)	即興型ディベート②(第二反駁)	即興型ディベート②(第二反駁)	
5	5月3週	立論提示型D(KJ法-㊟団を比較)	即興型ディベート③(第二反駁)	即興型ディベート③(第二反駁)	
6	5月4週	立論提示型D(立論を考える-情報収集)	アフターディベート(論理構築)	アフターディベート(論理構築)	
7	6月1週	立論提示型D(立論を考える-論理構築)	D-I 論題(論題の背景を考える)	Dマッチ(論題の背景を考える)	
8	6月2週	立論提示型D(質疑・反駁を考える)	D-I 論題(KJ-㊟団を考える)	Dマッチ(KJ-㊟団を考える)	
9	6月3週	立論提示型D(質疑・反駁を考える)	D-I 論題(KJ-㊟団を比較)	Dマッチ(KJ-㊟団を比較)	
10	6月4週	立論提示型D①(第二反駁)	D-I 論題(情報収集)	Dマッチ(情報収集)	
11	7月1週	立論提示型D②(第二反駁)	D-I 論題(立論作成)	Dマッチ(立論作成)	
12	7月2週	立論提示型D③(第二反駁)	D-I 論題(立論勝負)	Dマッチ(立論勝負)	
13	9月1週	1学期のディベート論点整理	D-I 論題(1学期のディベートの論点整理)	Dマッチ(1学期のディベート論点整理)	
14	9月2週	アフターディベート(論題について)	D-I 論題(立の再構築、質・反の想定)	Dマッチ(立の再構築、質・反の想定)	
15	9月3週	強化ワーク(立論 or 質疑 or 反駁)	D-I 論題(立の再構築、質・反の想定)	Dマッチ(立の再構築、質・反の想定)	
16	9月4週	新論題設定(アフターをもとに議論を深める)	D-I 校内予選会①	Dマッチ①(第二反駁)	
17	10月1週	D的な話し合い(自分の立場で情報収集)	D-I 校内予選会②	Dマッチ②(第二反駁)	
18	10月2週	D的な話し合い(自分の立場で論理構築)	D-I 校内予選会③	Dマッチ③(第二反駁)	
19	10月3週	D的な話し合い(全体交流)	D-I 校内予選会④	アフターディベート(自身・論題について)	
20	10月4週	アフターディベート(論題について)	D-I 校内予選会⑤	新論題設定(アフターをもとに議論を深める)	
21	11月1週	アフターディベート(全体交流)	アフターディベート(自身・論題について)	D的な話し合い(自分の立場で情報収集)	
22	11月2週	ディベート参観(2年生)	代表者Dマッチ(1・2年生ジャッジ)	D的な話し合い(自分の立場で論理構築)	
23	11月3週	即興型ディベート(モデルディベート)	D-I 予選会	D的な話し合い(全体交流)	
24	11月4週	即興型ディベート①(第二反駁)	企業プレゼン大会①(プレゼン資料作成)	ビブリオバトル①(内容を構成)	
25	12月1週	即興型ディベート②(第二反駁)	企業プレゼン大会②(プレゼン資料作成)	ビブリオバトル②(伝える練習)	
26	12月2週	即興型ディベート③(第二反駁)	企業プレゼン大会③(プレゼン原稿構成)	ビブリオバトル③(班交流➡代表者)	
27	12月3週	アフターディベート(論理構築について)	企業プレゼン大会④(プレゼン原稿構成)	ビブリオバトル④(決勝戦:審判-全員)	
28	1月2週	Dマッチ(㊟団を考える)	企業プレゼン大会⑤(リハーサル・ブラッシュアップ)	即興型ディベート①価値論題A(第二反駁)	
29	1月3週	Dマッチ(役割ごとに立・質・反を考える)	企業プレゼン大会⑥(本番)	100分で 構成	即興型ディベート②価値論題A(第二反駁)
30	1月4週	Dマッチ(役割ごとに立・質・反を考える)	企業プレゼン大会⑦(本番)		即興型ディベート③価値論題A(第二反駁)
31	2月1週	Dマッチ(チームで助言し合いブラッシュアップ)	企業プレゼン大会⑧(感想交流・振り返り)		即興型ディベート①価値論題B(第二反駁)
32	2月2週	Dマッチ①(第二反駁まで)	即興型ディベート①価値論題(第二反駁)		即興型ディベート②価値論題B(第二反駁)
33	2月3週	Dマッチ②(第二反駁まで)	即興型ディベート②価値論題(第二反駁)		即興型ディベート③価値論題B(第二反駁)
34	3月1週	Dマッチ③(第二反駁まで)	即興型ディベート③価値論題(第二反駁)		作文(ディベートの価値とは)
35	3月2週	1年間の振り返り	1年間の振り返り		1年間の振り返り(作文交流含む)

※上記内容は【一例】であり、そのまま実施するだけでは十分な効果を得られない。

「生徒の実態」と「ねらい」に応じ、柔軟に指導内容を考えることが重要である。

※データがない場合でも、「論理性」を重視して「論理構築する力」を育成するために即興型ディベートも取り入れる。

ねやがわディベート 年間カリキュラム（例）

	目標	学 年	学級ディベートの具体的段階 (○番号：発言の順番)	4～6月	7～12月	1～3月	目指す姿																																													
				話し手としての成長	聞き手としての成長	集団としての成長																																														
成長期	他者とコミュニケーションを楽しむことを体験的に理解することを通して、ディベートの基礎となる言葉への興味・関心を高める。 (ディベートや教科学習につながる「対話の素地」の育成)	小学1年生		・多層指導モデルMIM ・コミュニケーションゲーム ・教科におけるディベート的な授業（2項対立） 《指導の留意点》 ・MIM - PM（アセスメント）をもとに、MIMを実施する。 ・話すことや聞くことの楽しさを味わわせる。 ・「どっち、どっちタイム」（就学前教育）の経験を生かし、理由も併せて問う。 ・テーマを決める際、子どもの想いや願いを大事にする。 ※生活科や特活など	・思ったことと、そのわけを言うことができる。 ・聞きやすい大きさの声と速さで話すことができる。	・もっと知りたいことを聞いたり、思ったことを言ったりすることができる。	・進んでコミュニケーションを楽しむことができる。																																													
		小学2年生		・聞き取りやすい声の大きさや、話す速さを工夫することができる。	・聞いたことの中から、大事なことをメモすることができる。 ・質問をして、相手の考えを引き出すことができる。	・友達の見解をすすんで聞こうとする子どもが増え、支持的風土が広がる。																																														
		小学3年生		・コミュニケーションゲームや教科におけるディベート的な授業を行う。	・伝えたいことに合わせて、声の強弱や話す速さなどを工夫することができる。	・話の中心に気を付けて聞き、どのように質問するとよいかを考えることができる。	・友達の見解にも質問や反駁ができるようになる。 ・人と意見を見分けることができる。																																													
		小学4年生		<table><tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>⑦</td><td>⑧</td></tr><tr><td>A</td><td>作</td><td>否定</td><td>B</td><td>質疑</td><td>作</td><td>B</td><td></td></tr><tr><td>立論</td><td>戦</td><td>質疑</td><td>作</td><td>質疑</td><td>戦</td><td>反駁1</td><td></td></tr><tr><td>B</td><td>戦</td><td>戦</td><td>A</td><td>戦</td><td>質疑</td><td>A</td><td></td></tr><tr><td>立論</td><td>立論</td><td>立論</td><td>質疑</td><td>質疑</td><td>反駁1</td><td>反駁1</td><td>⑦</td></tr><tr><td>②</td><td></td><td></td><td></td><td>⑤</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	A	作	否定	B	質疑	作	B		立論	戦	質疑	作	質疑	戦	反駁1		B	戦	戦	A	戦	質疑	A		立論	立論	立論	質疑	質疑	反駁1	反駁1	⑦	②				⑤			
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧																																													
A	作	否定	B	質疑	作	B																																														
立論	戦	質疑	作	質疑	戦	反駁1																																														
B	戦	戦	A	戦	質疑	A																																														
立論	立論	立論	質疑	質疑	反駁1	反駁1	⑦																																													
②				⑤																																																
発展期	様々なディベートの実践を通して、討論を楽しみ考え続けることができる力を育む。 <u>(多面的・多角的に「考察する力」の育成)</u>	小学5年生	①肯定 ②作 ③否定 ④質疑 ⑤作 ⑥肯定 ⑦質疑 ⑧作 ⑨肯定 ⑩反駁1 ⑪反駁1 ⑫反駁1 【注】 ③⑧は否定側からの質疑と反駁 ⑥⑨は肯定側からの質疑と反駁 ※下記の高学年の進行の流れに合わせた発展的実践も可能	・判定のルールを決めて討論ゲームを楽しむ。 ・自分たちで論議を決めてミニディベートをする。 ・発言記録の方法を確認し、ミニディベートをする。 <u>(0-1グランプリ)</u>	・第1反駁までのディベートを実施し、立論・質疑応答・反駁の質を高めるワークショップを行う。 ・アフターディベートに取り組む。	・メリット、デメリット形式の話し方ができる。 ・意見理由と結論とに分け、理由を否定することができる。 ・結論と根拠の関係を考えながら聞くことができる。 ・要点をメモしながら聞くことができる。	・話を批判的に聞くことができる。 ・確認したいことを考えながら聞くことができる。 ・反駁を考えながら聞くことができる。 ・要点をメモしながら聞くことができる。	・友達の見解にも質問や反駁ができるようになる。 ・対話的な学習ができるようになる。 ・人と意見を区別して話したり聞いたりすることができるようになる。 ・建設的な議論ができる。																																												
		小学6年生	①肯定 ②作 ③否定 ④質疑 ⑤作 ⑥肯定 ⑦質疑 ⑧作 ⑨肯定 ⑩反駁1 ⑪反駁1 ⑫反駁1 ⑬反駁1 ⑭反駁1 ⑮反駁1 【注】 ③は否定側からの質疑 ⑥は肯定側からの質疑 ⑧は否定側の第1反駁 ⑨は肯定側の第1反駁 ⑪は、⑨に対する否定側の第2反駁 ⑫は、⑧に対する肯定側の第2反駁	・「メリット・デメリット方式」（政策論題によるディベート）をする。 ・シンキングツール等を使った論理構築をする。 ・反駁型ディベートに取り組む、第2反駁の仕方を知る。 ・アフターディベートに取り組む。	・第2反駁までを含むディベートをする。 ・「学級ディベート大会」をする。 ・ピフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・モデルディベートを3年生（4・5年生）に披露する。	・相手の質問を受けて、反駁ができる。 ・自分で課題を決め、ディベート的な意見を主張できる。	・結論と理由の関係に気を付ける。 ・結論と根拠の関係を批判しながら聞くことができる。 ・自分の表現に友達のよさを取り入れるために聞くことができる。	・友達の見解にも質問や反駁ができるようになる。 ・話的な学習により、考えを深めることができる。 ・人と意見を区別して話したり聞いたりすることができるようになる。 ・建設的な議論ができる。 ・どんな課題についても主体的・対話的に学習できる。																																												

深化期	小学校でのディベートの実践を土台にして、戦略的に討論を進め、論理的に考え続けることができる力を育てる。	中学 1 年生	・モデルディベートを参観する。 ・第 2 反駁までを含むディベートをする。 ・シンキングツール等を使った論理構築をする。 ・いずれかの立論を選択し、立論を修正する。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。	・ディベートで身に付けた技術を活かし、色々な話し合い討論をする。 ・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。	・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。	・各教科等の学習内容から、自分たちで論題を設定し、ディベートに取り組む。 ・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。	・第 2 反駁までを含むディベートをする。 ・議論をふり返り、立論を修正して、結論を考える。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。	・各教科等の学習内容から、自分たちで論題を設定し、ディベートに取り組む。 ・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。	・各教科等の学習における、作文やスピーチ等の表現活動において、ディベートで培った表現が活用できる。 ・複数の根拠から、より客観性の高い情報を根拠に発言することが出来る。 ・相互の反駁をもとに立論を修正することが出来る。 ・発言内容、その解釈、評価を根拠にし、修正した立論を評価し合うことが出来る。 ・即興的な議論においても自分の主張を述べる事が出来る。	・結論と根拠の関係を批判しながら聞ける。 ・効果的な反駁を評価しながら聞ける。 ・双方の考えの共通点や相違点を意識しながら聞くことができる。	・結論と理由の関係を批判しながら聞ける。 ・効果的な反駁を評価しながら聞ける。 ・自分の表現に友達のように取り入れるために聞くことができる。	・人と意見を区別して話したり聞いたりすることができるようになる。 ・建設的な議論ができる。 ・全ての立場で利点があるような関係で学ぶ。 ・話し手、聞き手、判定、全ての立場が学べるような討論ができる。 ・どんな課題についても主体的・対話的に学習できる。
	中学 2 年生	・モデルディベートを新入生に披露する。 ・第 2 反駁までを含むディベートをする。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。 ・ディベートの議論の流れを基に、スピーチやプレゼンテーション等を行う。	・各教科等の学習内容から、自分たちで論題を設定し、ディベートに取り組む。 ・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。	・第 2 反駁までを含むディベートをする。 ・議論をふり返り、立論を修正して、結論を考える。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。	・各教科等の学習における、作文やスピーチ等の表現活動において、ディベートで培った表現が活用できる。 ・複数の根拠から、より客観性の高い情報を根拠に発言することが出来る。 ・相互の反駁をもとに立論を修正することが出来る。 ・発言内容、その解釈、評価を根拠にし、修正した立論を評価し合うことが出来る。 ・即興的な議論においても自分の主張を述べる事が出来る。	・結論と根拠の関係を批判しながら聞ける。 ・効果的な反駁を評価しながら聞ける。 ・双方の意見の長所を捉え、よりよい結論を考えながら聞くことができる。	・結論と理由の関係を批判しながら聞ける。 ・効果的な反駁を評価しながら聞ける。 ・自分の表現に友達のように取り入れるために聞くことができる。	・人と意見を区別して話したり聞いたりすることができるようになる。 ・建設的な議論ができる。 ・全ての立場で利点があるような関係で学ぶ。 ・話し手、聞き手、判定、全ての立場が学べるような討論ができる。 ・自分の意見や一つの見方に固執せず、柔軟な態度で討論ができる。 ・これまでのディベート学習や、政策論を通して、社会問題について学び、社会参画への意識を高めることができる。				
	中学 3 年生	・モデルディベートを新入生に披露する。 ・第 2 反駁までを含むディベートをする。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。 ・ディベートの議論の流れを基に、小論文を書く（チャレンジ小論文）。	・各教科等の学習内容から、自分たちで論題を設定し、ディベートに取り組む。 ・「学級・学年ディベート大会」をする。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。	・第 2 反駁までを含むディベートをする。 ・議論をふり返り、立論を修正して、結論を考える。 ・ビフオー及びアフターディベートに取り組む。 ・即興型ディベートにも取り組む。	・各教科等の学習における、作文やスピーチ等の表現活動において、ディベートで培った表現が活用できる。 ・複数の根拠から、より客観性の高い情報を根拠に発言することが出来る。 ・相互の反駁をもとに立論を修正することが出来る。 ・発言内容、その解釈、評価を根拠にし、修正した立論を評価し合うことが出来る。 ・即興的な議論においても自分の主張を述べる事が出来る。	・結論と根拠の関係を批判しながら聞ける。 ・効果的な反駁を評価しながら聞ける。 ・双方の意見の長所を捉え、よりよい結論を考えながら聞くことができる。	・結論と理由の関係を批判しながら聞ける。 ・効果的な反駁を評価しながら聞ける。 ・自分の表現に友達のように取り入れるために聞くことができる。	・人と意見を区別して話したり聞いたりすることができるようになる。 ・建設的な議論ができる。 ・全ての立場で利点があるような関係で学ぶ。 ・話し手、聞き手、判定、全ての立場が学べるような討論ができる。 ・自分の意見や一つの見方に固執せず、柔軟な態度で討論ができる。 ・これまでのディベート学習や、政策論を通して、社会問題について学び、社会参画への意識を高めることができる。				

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
肯定	作	否定	肯定	肯定	肯定	肯定	肯定	肯定	肯定	肯定
立論	戦	質疑	作	戦	戦	戦	反駁1	反駁1	反駁1	反駁2
否定	作	肯定	肯定	肯定	肯定	肯定	肯定	肯定	肯定	肯定
立論	戦	質疑	作	戦	戦	戦	反駁1	反駁1	反駁1	反駁2

【注】

③は否定側からの質疑

⑥は肯定側からの質疑

⑧は否定側の第 1 反駁

⑨は肯定側の第 1 反駁

⑪は、⑨に対する否定側の第 2 反駁

⑫は、⑧に対する肯定側の第 2 反駁

（「新たな価値を創造する力」の育成）

肯定側立論（①：2分）

◎メリット

○メリットが起きる理由

○重要性

作戦タイム（②：1分）

否定側質疑（③：1分）

作戦タイム（⑦：1分）

否定側第一反駁（⑧：1分）

否定側立論（④：2分）

◎デメリット

○デメリットが起きる理由

○深刻性

作戦タイム（⑤：1分）

肯定側質疑（⑥：1分）

肯定側第一反駁（⑨：1分）

肯定側第二反駁（⑫：1分）

否定側第二反駁（⑪：1分）

肯定側立論（①：2分）

現状分析

メリット

肯定側立論（①：2分）

今から、論題「日本の小中学校は携帯電話等の校内への持ち込みを許可すべきである」に肯定側の立場で立論します。
起きるメリットは「登下校時の安全・安心が確保される」です。
なぜ、このメリットが起きるのか説明します。近年、登下校中の子どもが犯罪被害にあらう事件や事故が多発しています。また、昨年6月には大阪府北部地震が登校時間帯に発生し、登下校中の安全確保について不安な声が上がっています。
このような事態を踏まえ、2019年2月19日文科科学省が「小中学校は持ち込みを原則禁止」という指針を見直す方針を発表しました。
引用開始
2019年2月19日朝日新聞デジタルから。柴山昌彦文部科学相は19日の会見で、携帯電話等やスマートフォンについて「小中学校は持ち込みを原則禁止」「高校は校内での使用を禁止」という指針を見直す方針を明らかにした。大阪府が18日に公表した、災害時の対応などを考慮して持ち込みを認める案についての考えを聞かれ、答えた。引用終了。
このように、携帯電話等の持ち込みを許可することは、私たち子どもに大切な命を危険や災害から守るために有効な手段であるとされています。
命より大切なものはありません。その命を守るために携帯電話等の持ち込みを許可すべきです。
重要性
以上で、肯定側の立論を終わります。

否定側立論（④：2分）

デメリット

否定側立論（④：2分）

今から、論題「日本の小中学校は携帯電話等の校内への持ち込みを許可すべきである」に否定側の立場で立論します。
起きるデメリットは「学力が下がる」です。なぜ、このデメリットが起きるのか説明します。校内への持ち込みを許可すると携帯電話等の使用時間が増えます。携帯電話等にはゲームやネット接続等の機能があります。これらはとても興味を引くもので、子どもも大人も夢中になってしまいます。休み時間中使ってしまうことも授業中に隠れて使用する人も出てきます。すると、学校に来てもゲーム等ばかりしてしまいます。このように、ゲームやネット接続等の時間が長くなると学力が下がります。その根拠を述べます。
引用開始
2014年8月25日文科科学省平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について（概要）児童生徒の学習・生活習慣と学力との関係から。次の児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。【児童生徒質問紙】携帯電話やスマートフォンで通話・メール・インターネットをする時間が短い。
引用終了。
この調査結果では、中学校数学Bにおいて、携帯電話等を1日当たり4時間以上使用している生徒と30分未満の生徒では、平均正答率の差が18.6%あり使用時間が長いと学力が低くなっています。
深刻性
小中学生において、学力をつけることは大切なことです。携帯電話等の持ち込みを許可することで、学力に悪影響が起ることは明らかです。
以上で、否定側の立論を終わります。

否定側質疑（③：1分）

肯定側質疑（⑥：1分）

質問側：なぜ、～～～～～と言えるのですか。
回答側：○○○○○だからです。
質問側：なぜ○○○○○だと、□□□□□と言えるのですか。
根拠（データ）
※引用内容を提示する場合は、原則この様式に倣うとよい。また、発達段階に応じ、伝え方を変えてもよい。
(例)
「…発表しました。その中では、携帯電話等やスマートフォンについて、「小中学校は持ち込みを原則禁止」「高校は校内での使用を禁止」という指針を見直す方針を明らかにしたと示されています。

否定側第一反駁（⑧：1分）

肯定側第一反駁（⑨：1分）

反駁（反論）の4拍子
①肯定側は
○○○○○と言いました。
引用
②しかし、それは認められません。
(たいして重要ではありません)
否定
③なぜかというと
□□□□□□□□
(理由を説明する)
根拠
④そのため、肯定側のいう「登下校時の安心・安全が確保される」というメリットは起こりません。
結論

肯定側第二反駁（⑫：1分）

否定側第二反駁（⑪：1分）

反駁（反論）の4拍子
①肯定側は
○○○○○と言いました。
引用
②しかし、それは認められません。
(重要ではありません)
否定
③なぜかというと
□□□□□□□□
(理由を説明する)
根拠
④そのため、「学力が下がる」というデメリットが起きます。
結論

作戦タイム（②：1分）

作戦タイム（⑦：1分）

作戦タイム（⑩：1分）

作戦タイム（⑬：1分）

肯定側立論 (①：2分)

◆メリットが1つの場合は「卷末資料③」を基本とする。

◆メリットが複数ある場合は、それぞれに「理由づけ」と「重要性」を述べる。

(例)

私たちは、論題「図書室にマンガも置くべきである。」について肯定側の立場で立論します。起きるメリットは2つあります。

1つ目は「本に触れる機会を増やす」ということです。読書に苦手意識があり、本を読まなければならぬから読むという人が、…(理由づけ) …。

マンガを含め、本に触れる機会が増えることで、知識も増えることはまちがいありません。(←重要性)

2つ目は「表現力が豊かになる」ということです。みなさん、「〇〇」というフレーズを知っていますか？(理由付け) …。

このように、豊かな表現に触れることは、自身の表現力を豊かにするとともに、自分の生き方を方向付けることにもつながります。(←重要性)

以上のことから、私たちは「図書館にマンガを置くべきである」と考えます。

作戦タイム
 ②：1分

否定側質疑 (③：1分)

◆「相手の意図」と「自分の解釈」にズレが生じないよう、「確認」の質問をする。

※「意見を尊重する」ことにつながる

(例)

・立論で「本に触れる」と言っていますが「マンガ」も含んでいますか？

◆意見の不十分さを指摘する(反駁する)ために、質問する。

(例)

・先程提示したデータは、いつのものですか？(信憑性を指摘するため)

・アンケートの対象者はだれですか？(テーマとの整合性・妥当性を指摘するため)

・立論で…と述べていましたが、なぜ「マンガから読書へ移る」と言いきれるのでしょうか？(因果関係等、論理を指摘するため)

作戦タイム
 ⑦
 作戦タイム
 ④：1分

肯定側質疑 (⑥：1分)

○デメリット

○デメリットが起きる理由

○深刻性

作戦タイム
 ⑤：1分

否定側第一反駁 (⑧：1分)

◆相手の立論内容を引用して論理的に反論する。

※「データの有無」に対する反論だけでなく、相手の論理(因果関係等)に対しても反論(説得)できるように努める。

(例)

・先程、肯定側は「本に触れる機会を増やす」ことが「知識を増やす」と述べていましたが、それは認められませんが、そもそもマンガはあくまでも娯楽を目的としたものであり、図書室設置の目的から外れる点において、ふさわしくありません。絵本や文学作品を含むあらゆるジャンルの本に親しむことを目的として図書室は設置されており、そういう意味で「本に触れる機会を確保」できています。つまり、マンガを設置せずとも「知識を増やせる」環境はすでに整っており、マンガから得られる「知識」は対象としていません。…

作戦タイム
 ⑧：1分

肯定側第一反駁 (⑨：1分)

○デメリット

○デメリットが起きる理由

○深刻性

肯定側第二反駁 (⑩：1分)

◆第一反駁の内容について論理的に反論する。

※原則、全ての内容について反駁することを目指す。

(例)

先程否定側は、「図書室設置のねらいとのズレ」を主張していましたが、それは認められません。マンガは「日本文化のシンボル」として、世界中で年々その「価値」が高まっています。確かに娯楽の一面はありますが、立論で述べたように、「人生の指針」「座右の銘」とも言える名言を世に残しています。これは、文学作品という「主題」と重なり、「生き方・在り方」を見つめ直す機会となります。以上のような理由から、現状の図書館のねらいに固執せず、興味・関心を出発点に豊かに学ぶために図書室にマンガを設置するべきだと考えます。

また、「〇〇」という主張も認められません。…

否定側第二反駁 (⑪：1分)

○デメリット

○デメリットが起きる理由

○深刻性

ディベートフローシート 名前（

）

【定義】

論題：

①肯定側立論	②否定側質疑	⑤否定側第一反駁
③否定側立論	④肯定側質疑	⑥肯定側第一反駁

※メリット（デメリット）や理由が2つある場合は、それぞれに対して質疑・反駁できるようにメモを取りましょう。

ディベートフローシート 名前（

名前名前【定義】

論題：

①肯定側立論	②否定側質疑	⑤否定側第一反駁	⑧肯定側第二反駁
③否定側立論	④肯定側質疑	⑥肯定側第一反駁	⑦否定側第二反駁

※メリット（デメリット）や理由が2つある場合は、それぞれに対して質疑・反駁できるようにメモを取りましょう。

各校実施ディベート論題事例

この論題事例は、令和2年度から6年度にかけて、市内各小中学校で行われたディベートの論題の一例です。実践の参考にしてください。

※各学校、地域、家庭の実態を考慮し、人権に十分配慮した上で実施するようにして下さい。

○価値論題例

【4年生以上の全学年・全校種】

- ・「ペットを飼うなら犬より猫の方がよい。」
- ・「朝はご飯よりもパンの方がよい。」
- ・「国民食にするならカレーかラーメンか。」
- ・「夏よりも冬の方がよい」
- ・「大人と子どもでは、どちらが得か。」
- ・「好きなものから食べるか、苦手なものから食べるか。」
- ・「夏休みの宿題、毎日少しずつするか、一気にするか。」
- ・「タイムマシン開発！行くなら過去か未来か。」
- ・「いっしょに過ごすなら、生きている犬か、ロボット犬か。」
- ・「将来役立つのは算数か。それとも国語か。」
- ・「学校で食べるのは、弁当がいいか、給食がいいか。」
- ・「家にテレビは必要である。是か非か。」
- ・「電話より手紙の方が気持ちが伝わる。」
- ・「より効果があるのは、予習か復習か。」
- ・「動物園の動物と野生の動物は、どちらが幸せか。」

【主に高学年以上】

- ・「家を建てるなら木よりもコンクリートの方がよい。」
- ・「受信した内容を読み、返信をしないことはありかなしか。」
- ・「無人島で生きるのに必要なのは、ナイフかライターか。」
- ・「大切なのは愛かお金か。」
- ・「敬語は使うべきである。」
- ・「嘘をつくのは、許されるべきである。」
- ・「和食と洋食、どちらが優れているか。」
- ・「各家庭で植物を植えたり育てたりするべきだ。」
- ・「新聞よりテレビの方が情報を得やすい。」
- ・「宿題と自主学は、どちらが大事か。」
- ・「試験前日は、夜遅くまで勉強するべきだ。」
- ・「eスポーツはスポーツといえるのか。」
- ・「好きな職業を仕事にすべきである。」
- ・「将来のために進学するなら、私立である。賛成か反対か。」

○政策論題例

【4年生以上の全学年・全校種】

- ・「動物園を廃止すべきである。」
- ・「学校に自動販売機を設置すべきである。」
- ・「学級文庫にマンガを置くべきである。」
- ・「学校の図書館にマンガを置くべきである。」
- ・「クラスでは生き物を飼うべきである。」
- ・「公園のごみ箱はなくすべき（設置するべき）である。」
- ・「寝屋川市に〇〇（動物園・水族館・遊園地等）は必要である。」
- ・「〇〇学校は、20分休みを1時間休みにするべきである。」
- ・「〇〇学校は、置き勉を許可すべきである。」
- ・「〇〇小学校は、ランドセルをやめて、自由なカバンにするべきである。」
- ・「ヒーローが戦うときは、街を壊しても許されるべきである。」
- ・「ペットの売買はやめるべきである。」
- ・「野比家はドラえもんを21世紀に帰すべきである。」
- ・「ポイ捨てする人には罰金や罰則をかけるべきだ。」
- ・「日本国内では、ごみ袋持参でごみを管理するべきだ。」
- ・「お知らせなどは、プリントでもらうか、タブレット（ペーパーレス化）でもらうか。」

【主に高学年以上】

- ・「学校の宿題は、すべて自学にするべきである。」
- ・「電車の優先席は廃止すべきである。」
- ・「救急車の利用を有料にすべきである。」
- ・「学校への携帯電話の持ち込みを許可するべきである。」
- ・「タバコの値段を1000円にすべきである。」
- ・「コンビニの24時間営業は禁止すべきである。」
- ・「〇〇学校は、担任制度を廃止すべきである。」
- ・「小中学校の授業を週6日制に戻すべきである。」
- ・「バレンタインデーを廃止すべきである。」
- ・「自転車乗車を免許制度にすべきである。」
- ・「電動キックボードは免許制のほうが良いか。」
- ・「ごみの収集を有料にすべきである。」
- ・「〇〇学校は、全ての授業をオンラインに変えるべきである。」
- ・「登下校は、自転車でも良しとするべきである。」
- ・「〇〇学校は、テレビ、スマホ視聴を週4日に限定すべきである。」
- ・「男性専用車両も作るべきである。」
- ・「貧しい国に募金することを義務化するべきだ。」
- ・「中学校の部活としてeスポーツはあってもよい。」
- ・「小学生は無料通話アプリLINEの時間帯を制限すべきである。」
- ・「SNS投票は、実名でするべきである。」
- ・「2050年までに、ガソリン車は製造を禁止するべきである。」
- ・「日本では、選挙に行かない人は罰金を払うべきだ。」
- ・「消費税は上げるべきである。」
- ・「鶺鴒野飛行場の防空壕は、今後に残すべきである。」
- ・「寝屋川市は公園を増やすべきである。」

【主に中学生】

- ・「サマータイム制を導入すべきである。」
- ・「(男性の) 育児休暇を義務化すべきである。」
- ・「定年制を廃止すべきである。」
- ・「選挙で投票しない人には罰を与えるべきである。」
- ・「選挙は中学生から投票できるようにすべきである。」
- ・「高速道路を全面無料化すべきである。」
- ・「大人の給料は、全員同じにすべきである。」
- ・「最低賃金を全国一律にすべきである。」
- ・「日本の企業は週3日制を導入すべきである。」
- ・「男性の育児休暇を義務化すべきである。」
- ・「職場の飲み会は必要であるか、否か。」
- ・「日本は中学校・高等学校の部活動制度を廃止すべきである。」
- ・「日本は9月入学制にすべきである。」
- ・「定期テストは每学期1回のみとするべきである。」
- ・「高校入試は、入学試験の点数で合格、不合格を決めるべきである。」
- ・「授業開始前のメロディーチャイムを廃止すべきである。」
- ・「清掃活動を週に2回(火曜日・金曜日)のみの実施とするべきである。」
- ・「日本は、大統領制に変えるべきである。是か非か。」
- ・「日本は飲食店にドギーバッグの常備を義務付けるべきである。是か非か。」
- ・「裁判員制度を廃止するべきである。是か非か。」

○研究協力校・D-1 グランプリにおける実施論題

【明和小学校】

(R4年度)

- ・日本は、救急車の利用を有料化するべきである。(小5)

【石津小学校】

(R2年度)

- ・「教室で生き物を飼うべきである。」(小5)
- ・「情報収集するならインターネットか紙媒体か。」(R2小6)
- ・「コロナがさらに拡大した場合、小学校は休校にすべきである。」(R2小5)
- ・「小学校は完全オンライン化するべきである。」(R2小6)

(R3年度)

- ・「寝屋川市では、家庭ごみの回収を有料にするべきである」(小4) ※R3共通論題
- ・「日本では食品ロスを含む生ごみの排出量に応じて、お金を払うべきである」(小5)
- ・「飲食店は、わりばしの使用を廃止するべきである」(小6)

(R4年度)

- ・日本では、節電を推し進めるために、電気料金を値上げするべきである。(小5)
- ・日本では、全ての火力発電を代替発電に代えるべきである。(小6)

【第四中学校】

(R2年度)

- ・「〇〇鉄道は、電車の優先席を廃止すべきである。」(中1)
- ・「洋画は吹き替えで見るべきか、字幕で見るべきか。」(中1)

(R3年度)

- ・「四中での昼食は、弁当と給食ではどちらが優れているか」(中1)
- ・「スイッチョ」という詩を使って)

- ・「最後の空欄には明るい言葉が入るか、暗い言葉が入るか」（教員研修）
- ・「使い捨てプラスチック容器の使用を禁止するべきである」（中２）
- （Ｒ４年度）
- ・チャイムは鳴らすべきである。（中１）
- ・学校にスマホを持っていくことは必要である。（中３）

【第八中学校】

- （Ｒ４年度）
- ・桃太郎のお供は果たして本当に幸せだったのか。
- ・中学校の部活動の指導は、教師が行うのではなく外部の専門家に依頼すべきである。
- ・高校生はアルバイトをするべきである。

【寝屋川教育フォーラム】

- ・全ての自動車は、電気自動車にするべきである。（小６）
- ・飲料用のペットボトルは、全てビンにするべきである。（中２）

【Ｄ－１グランプリ】

《小学生の部》

- ・日本では、穀物の自給率を高めるべきだ。（2023）
- ・今、寝屋川市に必要なのは公園か。それとも商業施設か。（2024）

《中学生の部》

- ・仕事において重視するのは、お金よりやりがいである。（2023）
- ・高校生の間に、アルバイトは経験するべきである。（2024）

○論題に関する工夫例

- ・「定義」付けをする。（Ｒ３．１月の石津小指導案等参照）
- ・「誰がそれをすべきなのか」という主語を明確にする。
（「〇年〇組は」「〇〇小学校は」「寝屋川市は」「日本は」等）
- ・一度行った論題の主語を変えて再度やってみる。
- ・同じ論題で複数回ディベートマッチを行い、一人ひとりが「肯定側」「否定側」「ジャッジ」を全て経験できるようにする。

○系統的な論題の活用例

- ・「SDGsの視点を取り入れた論題」の系統的な活用例
- （小４）「公共の水道は今後も必要である」
- ↓
- （小５）「家庭からごみを出すのは有料にすべきである」
- ↓
- （小６）「割りばしの使用は今後も認めるべきである」
- ↓
- （中１）「水道料金を無料にすべきである」
- ↓
- （中２）「レストラン等での食べ残しには、追加料金を設定すべきである」
- ↓
- （中３）「プラスチックストローは有料にすべきである」

巻末資料⑨「各教科との関連を図った論題例（小・中）」

教科書名	ページ	タイトル	論題	補足
国語科（光村図書）				
国語 一年上	10	おはなし ききたいな	（絵本について） 〇〇と〇〇、どっちが好き？	P11記載の絵本「どっち？」を取り上げるか、2冊の絵本の読み聞かせの後に問うこともできる。
	26	よく きいて、はなそう	ドッジボールとおにごっこ、どっちが好き？	それぞれ個人の意見を述べた後に、一般的な遊びとして知られる左記内容を問う。
	80	すきな こと、ななに	絵をかくことと物をつくること、どっちが好き？	それぞれ個人の意見を述べた後に、左記内容を問う。
	94	としょかんと なかよし	〇〇と〇〇、Aさんにおすすめするならどっち？	対象のAさんにおすすめする本を選んでもらうことを先に伝え、読み聞かせを行う。
国語 一年下	44～54	たぬきの糸車	どの場面のたぬきが一番好きですか？	好きなたぬきについて理由を述べる中で、たぬきの様子を詳しく読み取ることができる。
	60	むかしばなしをよもう	（昔話について） 〇〇と〇〇、どっちが好き？	2冊の読み聞かせを行ったのちに、左記内容を問う。読み聞かせを行うことで、昔話に関心をもつことも期待できる。
	80～89	どうぶつの あかちゃん	どの動物をしらべてみたいですか？	紹介したい動物を選ぶ前に左記内容を問う。
	94, 95	ものの なまえ	どのお店屋さんをしたいですか？	知っているお店屋さんの共有後、左記内容を問う。
	108～119	ずうっと、ずうっと、大すきだよ	みなさんだったら子犬をもらいますか？	P118, 119に記載内容
国語 二年上	56～61	かんさつ名人になろう	教室で飼うなら〇〇か、それとも〇〇か？	生活科と関連 地域の実態に応じて、扱う対象を決める。
	90～93	あったりいいなこんなもの	あったほうがいいのは「空とぶくつか」、それとも「どこでもドア」か。	学習の導入、終末どちらでも実施可能。
	96～113	お気に入りの本を紹介しよう	「おはなしの本」と「ずかん」、どっちが好き？	好きな理由に注目させるために左記内容を問う。
国語 二年下	13～26	お手紙	お手紙は「かたつむりくん」ではなく「とりさん」に届けてもらうほうがよかった。	「長いことまっていた」「四日たって…」など、「かたつむりくん」であることに意味について考えることができる。
国語 三年上	45～47	もっと知りたい、友だちのこと	－	ディベートにおいて目的に沿った質問をするためにも、質問の種類を知ることは重要である。
	48,49	きちんとつたえるために	－	主語と述語を明確にすることや、理由を伝えることはディベートにおいても重要な要素である。
	65	全体と中心	－	話の中心を考えながら聞くことは、ディベートにおいても重要な要素である。
	71～90	まいごのかぎ	りいこは、その後「うさぎ」を書いたかどうか。	左記内容を問うことで、登場人物の心情の変化に注目することができる。
	96～97	引用するとき	－	引用の意味や約束を学ぶことはディベートにおいても重要な要素である。

国語 三年 上	122～123	こんな係がクラスにほしい	—	理由と併せて意見を述べることはディベートにおいても重要な要素である。話し合いの内容によっては、2項対立にすることも可能。
	124～127	ポスターを読もう	行きたくなるのは、どちらのポスターですか？	左記内容を問うことで、目的に沿ったポスター（資料）の作成、選択について考えることができる。
国語 三年 下	116,117	お気に入りの場所、教えます	何を伝えたくて、それぞれの写真を使おうと思ったのでしょうか	資料を使う「目的」について考えることができる。
	118～120	お気に入りの場所、教えます	—	P119「発表のれい」には立論構成において大切な要素が多く含まれている。
	121～136	モチモチの木	豆太は変化したかどうか。	物語の主題について考えることができる。
国語 四年 上		分ける・くらべる	—	分けること（カテゴライズ）やくらべること（比較）はディベートにおいて重要な要素。
	21～34	白いぼうし	題名にふさわしいのは白い帽子？夏みかん？	作品の主題を考えることを通して、「精査・解釈」を促す。
	44	聞き取りメモの工夫	—	ディベートにおいて、メモをすることは重要。
	53～66	筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう	—	具体的な例（具体例）を意識することは、ディベートでの説得力を上げるために重要。
	90～91	要約するとき	—	要約することは、相手の話をまとめて反論するとき、ディベートのまとめをするとき、に重要。
	98		中休みは、外に行くよりも部屋にいる方がよい。	
	～R5 教科書	ランドセルは海をこえて	世界の小学校は、カバンではなく、ランドセルを持たせるべきだ。	
国語 四年 下	～R5 教科書	中央清掃工場はどのようにごみを処理しているのかな。	ごみの回収は有料とすべきだ。	※社会4年でも取り扱っている。
		分ける・くらべる	—	いくつに分けるか、また1点目は～とナンバリングすることは、ディベートでも用いられる。物事の前と後を比べることは、ディベートでの政策をとる前、とった後の比較で使えるテクニック。
	48～59	未来につなぐ工芸品	100均グッズよりも伝統工芸品を買うべきである。	
国語 五年	～R5 教科書	うなぎのなぞを追って	ウナギを食べることはやめたほうがよい。	※（ニホン）ウナギは急激に減少していて絶滅してしまう可能性がある、という情報を与えたうえで、議論できるとよいでしょう。
	48	インタビューしよう	—	もっとも聞きたいことを、はっきりさせておく。→ディベートにおける質疑応答で重要。
	104～105	どちらを選びますか	・ペットにするなら、犬よりもねこのほうがよい。 ・ペットにするなら、本物の犬よりもロボット犬のほうがよい。	※AとBを比較するディベートでは、できるだけAとBの差が見えやすいものを設定してあげるほうがよい。

国語 五年	184～189	あなたは、どう考える	・電車やバスの優先席は必要である。 ・スーパーマーケットは二十四時間営業がよい。 ・病院の呼び出しは、番号よりも名前がよい。	
	199～210	想像力のスイッチを入れよう	新聞よりもインターネットを使うべきである。	
国語 六年		ものの考え方、伝え方	—	順序立てる・分ける・比べる 全体と中心・考えとその理由や事例・原因と結果 考えをつなげる、広げる 上記、いずれもディベートの重要な要素。
	65	主張と事例	昼休みは、長い方がよい。	
	102～103	一番大事なものは	—	ディベートでは、「肯定/否定チームで最も大事なこと（価値観）：チームスタンス」や「そのディベートで最も大事なこと」を考えることが重要。
	～R5 教科書	プログラミングで未来を創る	先生は、人間よりもAIのほうがよい。	
国際コミュニケーション科(外国語科)（東京書籍）				
NEW HORIZON Elementary English Course 5	70～71	日本の四季ポストカードを紹介しよう。	住むなら、四季のある国がよい。	
NEW HORIZON Elementary English Course 6	28～29	世界遺産について考えよう。	修学旅行では、世界遺産に行くべきだ。	
	34～35	Summer Vacation in the World	夏休みは海よりも山に行く方がよい。	
	48～59	環境～食料事情	—	FYI: 題材として、社会問題が取り上げられている。キーワードは、絶滅危惧種、ごみ、水資源、ボランティア、食べ残し、栄養不足。
生活科(啓林館) ※原則、子どもの「想いや願い」を出発点に話し合うテーマを設定する。(もっと～したい)				
生活 上	52～63	生きもの 大すき	(子どもから意見が出た場合) 学校で生き物を飼った方がよいかどうか。	生き物を飼う良さや大変さについて考えることを通して、生命の尊さについて考える機会となる。
	52～64	生きもの 大すき	(逃がした方がよい等の声が挙がった時に) 教室で飼う生きものと、野生の生きもの、どちらが幸せか。	生きものについての「幸せ」について考える中で、私たち「人間」との共通点に気づく機会となる。
	52～63	生きもの 大すき	(子どもから意見が出た場合) 教室で飼う生き物をふやしたほうがよいかどうか。	生き物を飼う良さや大変さについて考えることを通して、生命の尊さについて考える機会となる。
	52～63	生きもの 大すき	(子どもから意見が出た場合) 飼った生き物は逃がしたほうがよいかどうか。	生き物を飼う良さや大変さについて考えることを通して、生命の尊さについて考える機会となる。
	114,115	あたらしい1年生をしょうたいしよう	(1年生を招待する遊びについて、〇〇コーナーを増やしたいという声が上がった場合) 〇〇コーナーを増やした方がよいかどうか。	自分たちと重ね合わせ、「1年生にとって」よりよいものにするために話し合う機会となる。
	1～128	1年間を振り返って	(全ての四季の良さを体験した後に) 一番楽しかった季節はどれか。	学校や家庭での体験をもとに理由を述べている姿を価値づけながら、楽しく学習したことを思い出す機会となる。
生活 下	16, 17	大きく育て 私の野菜	やさいは種から育てるか。それとも苗から育てるか。	子どもが自分たちの想いや願いを創るために、考え、選択する機会を作る。

生活 下	50, 51	生きもの 大すき 大はっ見	クラスの生き物の世話は、係が行うか。それとも全員が順番で行うか。	クラスで生き物を飼った目的は必ずはじめに確認する。手段が変わっても、目的を達成している全員が納得できるようにする。
	108,109	これまでのわたし これからのわたし	感謝の気持ち手紙で伝える方がよいか。それとも直接言葉で伝えた方がよいか。	自分の経験と重ねる機会になるとともに、文字言語と音声言語の特徴について考える機会となる。
社会科（日本文教出版）				
社会 3年	92~93	未来につなげる～ わたしたちのSDG s ～食べられずにすてられてしまう食品を減らすために	学校の昼食は、給食より弁当の方がよい。	「食品ロス」の視点を踏まえながら、様々な角度から考える。
社会 4年	32~50	ごみのしよりと活用	ごみの回収は有料とすべきだ。 家庭ごみの量で回収料金を設定するべきだ。	※国語四年上にも関連
	全般	全般	—	FYI: ディベートを行うにはもう少し掘り下げる/調べる必要があるが、以下のトピックが取り上げられている。 水、電気、ガス、地球温暖化 地震、津波、火山 原子爆弾 祭り、日本遺産、バイオマス、天然林・人工林 多文化共生
社会 5年	120～135	これからの食料生産	食料品は、外国産よりも国産を選ぶべきだ。	※以下のポイント（すべて教科書に記載）を踏まえて議論するとよい。 ・食料自給率、輸入、ねだん、耕地面積、買い負け、かんばつ、収入、天候、さいばい漁業、地産地消、水産資源、トレーサビリティ
	120～135	これからの食料生産	朝食には洋食よりも和食がよい。	保健体育（中学）、理科3（中学）でも取り扱っている。
	120～135	これからの食料生産	日本は穀物の食料自給率を高めるべきである。	日本の地形の特長、外交関係、自然保護等、多面的に食料自給率について考察する。
	144～159	自動車工業のさかんな地域	自動車の自動運転は害よりも利益をもたらす。	国語1（中学）、理科1・3（中学）、技術分野（中学）でも取り扱っている。
	144～159	自動車工業のさかんな地域	全ての自動車は、電気自動車にするべきである。	「販売する自動車」「2050年までに達成」などの定義づけを行う。
	254～265	森林と私たちのくらし	日本は食糧自給率を高めるために、森林を活用するべきである。	自然保護の観点から日本の食料自給率について捉え直す。
	240～253	自然災害から人々を守る	被災した際に、より重要なのは自助ではなく、共助である。 （被災した時）避難所で避難生活を送るよりは家の庭や車などで避難生活を送る方がよい。	「防災学習」等、総合的な学習の時間と関連づけることで、多面的に考えることができる。 同上
	266～275	環境とわたしたちのくらし	公害が出るほどの高度経済成長は必要であったか。	「今後のよりよい社会づくり」における重要な観点について考える。
社会 6年	10~45	日本国憲法と政治のしくみ	消費税を増税させるべきである。	※税金のはたらき（p.36）で取り扱いがあるため、ディベートにおいて、政府が〇〇すべき、など税金が絡んでくる論題を設定するのもよさそう。
			日本は救急車の利用を有料化にするべきだ。	PUSH～命の授業～とも関連付けることで、多角的・多面的な見方ができやすくなる。

理科（啓林館）				
理科 3年	160～169	ものの重さくらしとリンク	小学校のかばんは自由にすべきである。	形や体積についての学びをもとに、ランドセルの歴史についての掲載があるので、形や使いやすさ等の利便性の視点も入れつつ考える。
理科 4年	全般	生き物	生き物の観察は、春夏よりも秋冬のほうが面白い。	春夏秋冬それぞれの生き物の観察について記載があるため、学習が終わってから、各季節の生き物の特徴を児童なりに列挙できるとよい。
理科 5年	全般	全般	—	FYI: ディベートを行うにはもう少し掘り下げる/調べることが必要ではあるが、以下のトピックが取り上げられている。 ・植物工場（ディベートへの発展では、遺伝子組み換え食品、ゲノム編集） ・受精卵（ディベートへの発展では、人工授精・体外受精への公的助成、代理母、出生前診断） ・電磁石、モーター（ディベートへの発展では、自動運転、ロボット）
理科 6年		クラゲとまちがえてビニル袋を食べようとするカメ	レジ袋は有料とすべきである。	
	全般	全般	—	FYI: ディベート自体を行うにはもう少し掘り下げる/調べることが必要ではあるが、以下のトピックが取り上げられている。 ・地震、TSUNAMI ・発電
図画工作科（開隆堂）				
図工 1・2年 上	54～55	ようこそあたらしい1ねんせい	新入生を迎える気持ちを伝えるためには1人1人へ工作の贈り物をするのがよいか 全員で1つの場所に飾り付けをするのがよいか	
図工 1・2年 下	42～43	形や色を見つけて	材料を探しに行くのは〇〇公園がよいか△△公園がよいか	知らない児童のために 〇〇公園にある草木や△△公園にある草木を伝える必要がある
図工 3・4年 上	26～27	表し方を考えて	ひまわりの表現の仕方はゴッホがよいか葛飾北斎がよいか	
図工 3・4年 下	20～21, 44～45	紙の箱だいへんしん・カクカク板を組み合わせたら	小物入れは、紙よりも木材で作る方がよい。	紙の特性、木材の特性を体験的に理解したうえでであると、意見がしやすい。
図工 5・6年 上	～R6教科書	技術の発達と表現の広がり	手作りよりもコンピュータを使った芸術を学ぶべきである。	どのような手作り/コンピュータのアートがあるか、図画工作で学んできた例を挙げながら議論する。
図工 5・6年 下	36～39	墨の達人・墨や筆の技 水墨画の世界へ	絵具より、墨での表現が楽しい。	絵具・墨での表現では、それぞれどのような工夫ができるか、体験的に学んだことを言語化する。

特別の教科 道徳（光村図書）				
道徳 1 年	34~37	かぞくとおはなし	家族とお話をするときに使う写真はペンギンよりゾウがよい。	
	60~63	とりかえっこ	小学校と幼稚園（保こ幼）どちらがよい。	
	86~87	せかいのこども	旅行にいくなら、フィンランドよりパプアニューギニアの方がよい。	
道徳 2 年	21~23	しょうかいします	自分の学校をしょうかいするなら、運動場より、給食を紹介する。	学校によって特徴的な場所に変え、比較して考えると良い。
	30~33	ダンゴムシのまるちゃん	生き物を買うなら、動物より虫の方がよい。	生活科と関連付けながら行くと良い。
	116~117	黒ばんが にっこりするかな	係活動するなら、配り係より、黒板係がよい。	学級の係活動の実態に合わせて設定すると良い。
道徳 3 年	18~21	日曜日の公園	公園でみんなと遊ぶなら、ゲームよりおにごこをした方がよい。	
	72~73	考えるじゅんぴたいそう	ものを壊された時より、悪口をいわれるほうが腹が立つ。	
	136~139	「わたしらしさ」をのばすために	苦手を克服するより、得意をのばす方に努力した方がよい。	
道徳 4 年	124~127	生き物と機械	ペットにするなら、本物の犬よりもロボット犬のほうがよい。	五年の国語科でも取り扱っている。
道徳 5 年	84~85	インターネットの特性とマナー	インターネットでのとくめい利用を禁止すべきである。	p.23記載：名前をかくせるーとくめい性
	124~127	クール・ボランティア	小学校でボランティア活動を義務化すべきである。	
道徳 6 年	81~86	世界人権宣言から学ぼう	—	ディベートでの争点を取り上げ、肯定・否定の価値観の差を見出すとき、記載の世界人権宣言の内容が大いにヒントとなる。 例：女性議員の割合を増やそう：世界人権宣言第二条「差別はいやだ」何をもって差別とするか。権利とは何か。 例：たばこの販売を禁止する：第二十九条「権利と身勝手はちがう」第三十条「権利をうばう「権利」はない」
保健体育科（東京書籍）				
保健体育 3・4 年	42	すいみんと発育	小学生は9時までに寝ることを義務付けるべきである。	
保健体育 5・6 年	34	インターネットによる犯罪被害	小学生はインターネットを使わない方がよい。	
	27~30	交通事故の防止	自転車乗車を免許制にすべきである。	
家庭科（東京書籍）				
家庭 5・6 年	28~35	ひと針に心をこめて	雑巾は100均で買うより、手ぬい（やミシン）で作った方がよい。	手ぬい（またはミシン）の経験をもって、是非を問う。
	44~53	食べて元気！ご飯とみそ汁	給食は全て和食にするべきである。	洋食と比較しながら栄養面、食料自給率向上、伝統文化と関連させることができる。
	112~121	まかせてね 今日の食事	学校でお弁当が必要なときは、保護者ではなく生徒自身が作るべきである。	p.114弁当作り

教科書名	ページ	タイトル	論題	補足
国語科（光村図書）				
国語 一年	9～10	思考の地図	—	プレスト：ディベートの準備、比較・分類：ディベートでのまとめ、分析・吟味：ディベートでのスピーチ作成
	46～49	ちょっと立ち止まって	—	ディベートでも視点によって、よいこと、悪いことが変わる。 （例）人口減少はよいことか、悪いことか
	52,138,186	比較・分類、意見と根拠、原因と結果	—	
	176～183	「不便」の価値を見つめ直す	自動車の自動運転は社会に利益をもたらす。	
	228～231	構成や描写を工夫して書こう	—	構成および描写はディベートのスピーチにおいて重要な要素である。
国語 二年	9～10	思考の地図	—	軸を2軸（実現性、効果）にする、根拠を複数示すなど：ディベートでの分析に有効
	29, 30	意見を聞き、整理して検討する	—	
	32, 52, 132	思考の視覚化、根拠の吟味、具体と抽象	学校図書館の利用者を増やすために、雑誌を置くべきである。	
	33～35	資料や機器を活用して話す	—	資料を活用する時も、話し方を工夫して聴き手の注意を引き付けることは重要である。
	55, 56	多様な方法で集めた情報を整理する。	—	情報の信憑性を高めるために、メディアの特長を理解し、比較・判断することが重要である。
	132～135	適切な根拠を選んで書こう	中学校の授業で模擬選挙を行うべきだ。	※教科書に記載あり
	186～189	立場を尊重して話し合おう	・今よりもオンライン授業を増やすべきである。 【～R5参考】 ・中学生のスマートフォン利用を禁止すべきである。 ・救急車の利用を有料にすべきである。 ・AI（人工知能）は人々の生活を豊かにする。 ・すべての中学生は、ボランティアをすべきである。	※教科書に記載あり
国語 三年	9～10	思考の地図	—	具体と抽象について、具体を複数挙げて関係性を理解する。
	29～31	意見を聞き、適切さを判断する	中学生は、全員ボランティア活動をするべきである。	※教科書に記載あり
	32～35	説得力のある構成を考えよう。	年始の挨拶は、はがき（年賀状）で行うべきである。	聞き手がどの程度、知識や関心を持っているのかを想定して、構成を考える。
	52, 84	具体化・抽象化、情報の信頼性	—	具体化・抽象化、情報の信頼性はディベートにおいて重要な要素である。
	55	論理の展開を意識して書こう	—	文章構成および内容を整えることについて記載。
	130～134	複数の意見を読んで考えよう	環境問題改善については、システムをつくるより個人の行動を促すべきだ。	
	135,136	文章を批判的に読み、評価する	—	立場、論理の展開、情報の信憑性等、批判的に捉えるための観点を持つ。
	137～139	論理の展開や表現を工夫する	—	「意見と根拠」「具体と抽象」の関係を意識することは、論理構築において重要である。
	179	文章を読んで、自分の意見をもつ	—	考えの形成時における「例証」や「反証」は、反駁力の向上につながる
	187～189	合意形成に向けて話し合おう	—	ディベートにおけるジャッジの視点としても役立つ。
	258,259	説明的な文章を読むために	—	ディベートの重要な要素が記載されている。

英語科（開隆堂）				
SUNSHINE ENGLISH COURSE 1	136～139	Our Project 3 モデルスピーチ	—	「聞く」「読む」活動の後に、スピーチ原稿の作成を行う。マッピングでの思考の整理や展開・発表の仕方について学ぶ。 第2学年Our Project 6（P119）でも取り扱っている。
SUNSHINE ENGLISH COURSE 2	～R6教科書 24	Interact(Our School Trip)	Domestic school trips are better than overseas school trips.	修学旅行は、海外より国内がよい
	～R6教科書 24	Interact (A Good Pet)	A dog is better than a turtle as a pet.	ペットにするなら、亀よりも犬がよい。
	98	Scenes for Basic Dialogs	Zoos are better than aquariums as a field trip.	遠足は、水族館より動物園がよい。
	99	Scenes for Basic Dialogs	Summer is better than winter.	冬よりも夏がよい。
	118	説得力のある説明をしよう	School uniforms are better than casual clothes.	制服よりも私服がよい。 （家庭科でも取り扱っている。）
	118	説得力のある説明をしよう	It is better to watch a movie at home than in a movie theater.	映画は、映画館より家で見る方がよい。
SUNSHINE ENGLISH COURSE 3	～R6教科書 18	ディベートをしよう	The Internet is better than newspapers.	新聞よりもインターネットがよい。
	～R6教科書 18	ディベートをしよう	It is better to watch a movie at home than in a movie theater.	映画は、映画館より家で見る方がよい。
	～R6教科書 72	わかりやすい文章を考えよう	An electronic dictionary is better than a paper one.	※ディベートでよく使用するつなぎことば（First～, However, ～, For example, ～, など）が紹介されている。 紙の辞書よりも電子辞書がよい。
	7	Japanese Bentos Are Interesting!	Bentos are better than school lunches.	給食よりも弁当がよい。
	54	Step3 for Our Projectディスカッションの流れを確認しよう	A knife is better than water on a desert island.	無人島に持っていくなら水よりもナイフがよい。
	90	Our Project 8モデルディスカッションを確認しよう	Paper straws are better than plastic straws.	ストローはプラスチックよりも紙がよい。
	95～103	Robots Can Improve Quality of Life	Artificial Intelligence(AI) is our enemy.	人工知能は人類の敵である。
理科（啓林館）				
理科 1 年	77,83 122	2章ゆれる大地 4章語る大地	マスコミは津波警報をやや過大に報道すべきである。	（p.116引用：災害を最小限にするためには、1人ひとりが液化化、津波、火砕流など、大地の変化に関する知識を身につけ、過去の災害の特徴などを学び、さまざまな情報を理解して活用することがたいせつである。） ディベートでは、上記の知識を持ちつつ、過大に報道せねば市民が避難しないのか、度重なるマスコミの過大報道で信用がなくなるのか考える。 社会科地理、国語2でも取り扱いあり。
	～R6教科書 264～265	自動運転を支える光と音の科学	人間が運転するタクシーよりも、自動運転タクシーのほうがよい。	自動運転には、センサ（光、音）が使用されていることを学んだうえで、社会実装で何が問題になるかを考えさせる問い。
理科 2 年	108～131	大気の動きと日本の四季	災害の情報は単一の情報ソースから周知されるべきである。	※難易度高い （天気の変化のメカニズムを理解したうえで議論する）
	～R6教科書 210～211	物質の表し方、科学で宝石を生み出す	ダイヤモンドはそれほどの価値はない。	※ダイヤモンドの元素や性質、人工の場合はその作り方を理解したうえで、ダイヤモンドの価値を面白おかしく議論してみてはどうか。

理科 3年	46～99	宇宙を観る	宇宙開発にもっとお金をかけるべきである。	
	122～139	電池とイオン	すべての乗用車を燃料電池自動車に変えるべきである。	
	～R6教科書 248～249	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	新築住宅への太陽光パネル設置を義務化すべきである。	※2021.4 国土交通省 第1回「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」で議論
	～R6教科書 250～265	自然と人間	朝食には洋食よりも和食がよい。	p262 ユネスコ無形文化遺産「和食」
	252	殺虫剤が与える影響	農業を行う際は、農薬を使用すべきである。	生態系について学んだうえで、他の農作物への影響も考えつつ取り扱ってはどうか。
	264～268	プラスチック	プラスチック製品はできるだけなくしていくべきである。	プラスチックの性質や特徴について学んだうえで、くらしの中でどのように利用していくのかについて考える。
	269～275	科学技術の利用とくらし	・自動車の自動運転は社会に利益をもたらす。 ・ペットにするなら、本物の犬よりもロボット犬のほうがよい。 ・ドローン兵器を禁止すべきである。	※自動運転は、理科1でも取り扱いあり。
社会科（歴史:東京書籍）(地理:帝国書院) (公民:日本文教出版)				
社会 歴史	156～165	欧米の進出と日本の開国	江戸幕府は開国すべきだった。	※準備型（証拠資料収型）ディベート
	166～183	明治維新	明治政府の富国強兵は害よりも利益をもたらした。	※準備型（証拠資料収型）ディベート
社会 地理	166～182 265～282	さまざまな土地のくらし	暮らすなら北海道より沖縄県の方にするべきである。	
	50	世界の諸地域（アジア州）	定住するよりも、遊牧するほうが幸せである。	
	66～79	世界の諸地域（ヨーロッパ州）	イギリスのEU離脱は、社会に利益をもたらした。	
	86～87	世界の諸地域（アフリカ州）	フェアトレードは社会に利益をもたらす。	
	100～101	世界の諸地域（アメリカ州）	多国籍企業は社会に利益をもたらす。	
	146～147	日本のさまざまな地域（日本の地域的特色）	マスコミは津波警報をやや過大に報道すべきである。	※理科1、国語2でも取り扱いあり。
社会 公民	8～9	少子高齢化の社会で生きる私たち	少子高齢化は社会に利益をもたらす。	p9 引用：「少子化と高齢化が進む原因を本文からぬき出しましょう。」
	10～11	情報化で変わる社会と私たち	情報化社会は社会に利益をもたらした。	p11 引用：「情報化によって便利になった点を本文からぬき出しましょう。」
	12～13	グローバル化する社会で生きる私たち	グローバル化は社会に利益をもたらした。	p13 引用：「グローバル化による社会の変化を本文から三つぬき出しましょう。」
	46～47	日本国憲法と国民主権	国民は首相を直接的に選ぶべきである。 （日本は首相公選制を導入すべきだ。）	
	53～53	等しく生きる権利	国会議員の一定数を女性とすべきである。 （日本は、国会議員の一定数を女性とするクオータ制を導入すべきである。）	
	62～63	社会の変化と人権保障ー情報化と人権ー	公共の場所での防犯カメラ設置を増やすべきである。	
	64～65	「ネット社会」とつき合う方法	・フェイクニュースを拡散させた者に罪を課すべきである。 ・中高生のネットゲームの時間を規制すべきである。	
	68～69	国際的な人権の保障	日本は難民をもっと受け入れるべきである。	
	70～71	公共の福祉と国民の義務	公務員のストライキ権を認めるべきである。	

社会 公民	82～91	国民主権と日本の政治	義務投票制を導入すべきである。	
	101	行政権の拡大と国民の生活	規制緩和は利益をもたらす。	
	146～147	株式会社のしくみと企業の社会的責任	会社で働くよりも、投資して暮らす方がよい。	
	150～151	グローバル化する経済と現代の企業	日本は自由貿易を推進すべきである。	
	156～157	変化する雇用のかたち	日本は外国人労働者を増やすべきである。	
	176～177	国の収入を支える税と国債	消費税を増やすべきである。	
	182～183	年金のしくみについて知ろう	年金支給開始年齢を70歳に引き上げるべきである。	
	212～213	限りある資源とエネルギー	原子力発電は害よりも利益をもたらす。	
	216～217	持続可能な社会をめざして	プラスチック製品に課税すべきである。	
特別の教科 道徳（日本文教出版）				
道徳 1 年	116～119	よりよい社会と私たち	無人販売はやめたほうがよい。	
	112～115	あったほうがいい？	街中にゴミ箱は置かないほうがよい。	
	100～104	公平と不公平	－	ディベートでのまとめにおいて、公平か不公平かが対立軸になることがあり、本考え方は役立つ。
	～R6教科書	家族を支え合うなかで	施設よりも自宅で介護する方がよい。	
道徳 2 年	50～53	戦争を取材する	ジャーナリストは紛争地に行くべきでない。	
	102～105	美しい鳥取砂丘	公共物への落書きをした者に厳罰化した方がよい。	
	80～81	インターネットでの情報発信	インターネットでの匿名投稿を禁止すべきである。	
	～R6教科書	ダジョー・ニシオカ	発展途上国に対する開発援助は害よりも利益をもたらす。	p.143引用：国際協力とは、一時的なものの援助であってはならない。（ヒント）
道徳 3 年	110～113	独りを慎む	家族と暮らすより独りで暮らした方がよい。	
	136～139	臓器ドナー	臓器移植を義務化すべきである。	※社会公民においても取り扱っている。
技術・家庭科(家庭分野:東京書籍)				
家庭分野	32～33	私たちの食生活	共食よりも、孤食のほうがよい。	※新型コロナウイルス感染症対策で黙食が進んでいる。今一度、食事について考えられるテーマ。
	104～107	持続可能な食生活を目指して	全商品にフードマイレージを記載すべきである。	
	118～121	衣服の選択と手入れ	制服を廃止すべきである。	外国語2でも取り扱っている。
	142～143	作って楽しい布作品	布製のプレゼントは、市販よりも手作りのほうがよい。	
	162～163	持続可能な衣生活を目指して	誕生日プレゼントには、新品の衣服より、リサイクル衣服を渡すべきだ。	
	172～175	住まいと気候風土の関わり	・洋式より和式の家のほうがよい。 ・家を建てるなら、木造よりも鉄筋がよい。	
	194～203	私たちの消費生活	・中学生もクレジットカードを使用できるようにすべきである。 ・小中学生はお小遣いをもらうべきである。	
	222～223	家庭生活の協力・協働	中学生は毎日1時間家事をすべきである。	

技術・家庭科(技術分野:東京書籍)				
技術分野	126～135	社会の発展と生物育成の技術	・遺伝子組み換え農作物を増やしていくべきである。 ・植物工場を大幅に増やすべきである。	
	138～145	エネルギー変換の技術	原子力発電は利益をもたらす。	社会公民でも取り扱っている。
	220～231	双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決	これからは英語よりもプログラミング言語習得のほうが役立つ。	
	238～249	計測・制御のプログラミングによる問題解決	自動車の自動運転は利益をもたらす。	国語1、理科1、3でも取り扱っている。
保健体育科（東京書籍）				
保健体育	18～19	食生活と健康	朝食には洋食よりも和食がよい。	理科3でも取り扱っている。
	20～23	休養・睡眠と健康	中学生は夜10時までに就寝すべきである。	
	132～135	生活に伴う廃棄物の衛生的管理	すべてのごみ収集は有料とすべきである。	
	162～170	現代社会におけるスポーツの文化的意義	国はスポーツにもっと助成すべきである。	
美術科（光村図書）				
美術 1年	10～69	見つけ、感じ取り、描く	プレゼントをするなら、絵よりも立体アートがよい。	
美術 2・3年	101,102	日本の伝統工芸	伝統技法（工芸品）は残すべきである。	
	～R6教科書	日本の世界文化遺産	修学旅行では、世界文化遺産を訪れるべきである。	

※本資料は、本市教育委員である大阪公立大学 中川 智皓 准教授と共同作成しています。

ディベートに関する主な用語一覧

用語	読み方	意味
論題	ろんだい	議論するためのテーマ
立論	りつろん	それぞれのグループで主張を組み立てた意見
質疑	しつぎ	反対の立場に対して質問すること ※ディベートマッチでは、「立論内容」に対して質問する。
応答	おうとう	質疑の内容に対して答えること
反駁	はんぱく	相手の立論内容に対して、論理的に反論すること
言葉の定義	ことばのていぎ	言葉の意味を定めること
プラン	ぷらん	論題を実行する具体的な内容
現状分析	げんじょうぶんせき	≪肯定側≫ 論題を導入しないことにより発生している問題に言及すること ≪否定側≫ 論題を導入しなくとも、問題が発生しないことに言及すること
ラベル	らべる	話の内容を簡潔に表した表題(題名・タイトル) 【例】 ・アレルギーになりにくい ・栄養バランスがよい ・量を調節できる } 体によい
メリット	めりっと	論題を実行した時に起きる「良いこと」
デメリット	でめりっと	論題を実行した時に起きる「悪いこと」
発生過程	はっせいかてい	メリット・デメリットが起きる過程
重要性	じゅうようせい	現状の問題を解決することが重要であること
深刻性	しんこくせい	発生した問題が深刻であること